

2026

10月-12月

Vol. 102 No.4

安息日聖書教科



ピリピ人、コロサイ人、 テサロニケ人への手紙からの教訓

今日の信徒たちのために忍耐、喜び、希望を築く持久力の試練

目次

1. 不可能を越えて	5
2. あらゆる状況においてキリストに似ている	10
3. イエスをよりよく知ろうと切望する	15
4. 天によって強化される	20
5. ふさわしく歩む	25
6. 救い主によって強められる	31
7. 永遠を反映する	36
8. 家族とその向こう	41
9. 失われた者のために労する	46
10. キリストに会う備えをする	52
11. 光のうちを生きる	57
12. 真に区別された民	62
13. 自ら戦いのために準備する	67

セブンスデーアドベンチス
ト改革運動世界総会安息
日学 校 部 (P.O.Box 7240
Roanoke, Virginia 24019-
0240, U.S.A)

安 息 日 聖 書 教 科
Vol.102, No.4

編集&発行:
S D A改革運動日本ミッション

〒368 - 0071
埼玉県秩父郡横瀬町芦ヶ久保
1607 - 1

TEL : (0494) 22-0465

URL :
<http://www.4angels.jp>

E-mail:
sdarm.shomaru@gmail.
com

イ ラ ス ト : iStockphoto,
Tanzania Mission,
Publishing Dept.,
Brazzaville Church.

安息日聖書教科は、他のコメントをいっさい加えず、完全に聖書と証の書のみに基づいた毎日の研究プログラムです。引用文は、簡潔で直接的な見解を提供するために、可能なかぎり短くされています。ある部分では、明瞭さや、適切な前後関係、また読みやすさのために〔 〕の括弧が使われています。抜粋されている原文をさらに研究することをぜひともお勧めします。

まえがき

パウロの手紙、一特に、ピリピ人への手紙、コロサイ人への手紙、テサロニケ人への手紙—を考察すると、そこには重要かつ包括的なメッセージが明確に響き渡っています。私たちはここで、クリスチャン品性における高度な発達の必要性、そして主の再臨に備えて重要な教義上の真理を理解する必要性を認識します。

これらの手紙は 2000 年近く前に書かれたものですが、現代のわたしたちにとっても非常に重要な意味を持っています。すべて 10 年という短い期間に書かれたもので、それぞれが現代社会に力強いメッセージを伝えています。ピリピ人への手紙は、信仰のために投獄されながらも使徒が抱いていた喜びを伝えています。同じく獄中で書かれたコロサイ人への手紙は、キリスト教の真の教義を明らかにし、テサロニケ人への二つの手紙は、彼ら自身迫害に直面していた人々に向けて、終末の出来事を他に類を見ない明瞭さで説明しています。

「今日、この世界には、主の再臨について人々に警告するためにキリストがお与えになったさまざまな証拠に、目をつぶっている者たちが大ぜいいる。時の終わりを示すしるしが急速に成就しており、人の子が天の雲に乗って来られるその時に向かって、この世界が急速に進んでいるにもかかわらず、彼らはすべての不安をおさえようとしている。キリストの再臨に先立って起こるしるしに無関心であることは罪であると、パウロは教えている。この怠慢の罪を犯している人々を、彼は夜の者、やみの者と呼んでいる。彼は次の言葉で、油断なく警戒するようにと励ましている。『しかし兄弟たちよ。あなたがたは暗やみの中にいないのだから、その日が、盗人のようにあなたがたを不意に襲うことはないであろう。あなたがたはみな光の子であり、昼の子なのである。わたしたちは、夜の者でもやみの者でもない。だから、ほかの人々のように眠っていないで、目をさまして慎んでいよう。』」（患難から栄光へ上巻 281, 282)

「わたしたちの目前には大争闘の最後の苦闘があり、そのとき『あらゆる偽りの力と、しるしと、不思議と、また、あらゆる不義の惑わしをもって』、サタンが神のご品性を誤り伝える働きを行う。こうして彼が『できれば、選民をも惑わそうとするであろう。』もし、天からの増し加わる光を絶えず必要としている民があるとすれば、それは、この危険の時代にいる民であり、神が聖なる律法の保管者として、また世の前にご自分のご品性を擁護するために召された民である。これほど神聖な信任を託されてきた人々は、信じると公言している真理によって、霊的にされ、高められ、活力を与えられた者でなければならない。パウロがコロサイ人への手紙の中で次のように述べたときの経験を、教会がこれほどまでに必要とし、また神が切望しておられたことはかつてなかった。『そういうわけで、これらの事を耳にして以来、わたしたちも絶えずあなたがたのために祈り求めているのは、あなたがたがあらゆる霊的な知恵と理解力とをもって、神の御旨を深く知り、主のみこころにかなった生活をして真に主を喜ばせ、あらゆる良いわざを行って実を結び、神を知る知識をいよいよ増し加えるに至ることである。』」（教会への証 5 巻 746)〔筆者強調〕

これがわたしたちの経験となりますように！

世界総会安息日学校支部

第一安息日献金 タンザニアミッションのために

タンザニア連合共和国は、広大な自然地域で知られる東アフリカの国です。ここには、ゾウ、ライオン、ヒョウ、バッファロー、サイなどが生息するサファリのメッカ、セレンゲティ国立公園や、アフリカ最高峰のキリマンジャロを擁するキリマンジャロ国立公園があります。沖合には、クジラ、サメ、サンゴ礁が生息する海洋公園のあるザンジバル島とマフィア島という熱帯の島々が点在しています。2024 年には、これらの美しい観光地を 180 万人の観光客が訪れました。

2025 年時点で、タンザニアの人口は 7100 万人を超えています。国内には 126 の言語が存在しますが、公用語はスワヒリ語と英語です。国土は 30 の地域に分かれており、うち 25 地域は本土に、5 地域はザンジバルにあります。主要な経済原動力は、インフラ開発、鉱業、石油・ガス産業です。人口の 60%以上が農業に従事しており、現在、農業の近代化が進められています。

worldatlas.comによると、タンザニアに存在する宗教グループのうち 35%が様々な形態のイスラム教、31%がローマ・カトリック、27%がプロテスタント、3.1%がその他のキリスト教、1.8%が土着宗教を信仰しており、残りは特定の宗教を信仰していません。

改革のメッセージはケニアの同胞を通じてタンザニアに届きました。私たちはドイツ人の兄弟たちにも助けられました。世界総会は、タンザニア近郊のルワンダ連合を通じて、スワヒリ語で安息日聖書レッスンを印刷しています。スワヒリ語は東アフリカのすべての国で話されています。

事業は、本部を建設し、学校を設立する段階にまで進展しました。このプロジェクトにとって、ドドマが最適な場所であると確信しています。ドドマは国内でも急速に発展している都市であり、現在、国の新たな首都となっています。私たちは 12.4 エーカーの土地を購入し、既に地元の教会を設立しました。私たちの提案するプロジェクトは、この地での活動をさらに発展させる可能性を秘めており、特に若者たちが安息日に関して公立学校で現在直面している困難を回避し、安心して学べるように支援できると考えています。

わたしたちは世界中の安息日学校の会員の皆様に、このプロジェクトに惜しみない献金をお願いします。皆さんの支援に先立ってお礼申し上げます。神がタンザニアでの働きに対するあなたのやさしさに大きく報いてくださいますように！

タンザニア・ミッションの兄弟姉妹より

不可能を越えて

暗唱聖句：「そして、あなたがたのうちに良いわざを始められたかたが、キリスト・イエスの日までにそれを完成して下さるにちがいないと、確信している。」（ピリピ人への手紙 1:6）

推奨文献： 教会への証 5 巻 263-267

「罪の生活に疲れ果て、しかもどこに救いを求めるかも知らない人にあわれみ深い救い主を紹介なさい。手をひいて引き上げ、励ましと望みの言葉を物語り、救い主のみ手につかまるように助けなさい。」（ミストリー・オブ・ヒーリング 143）

1. やさしく希望に満ちている

日曜日 9 月 27 日

- a. ローマの地下牢からのパウロのあいさつによって、どのように鼓舞されますか（ピリピ人への手紙 1:1-5）。

「ピリピ人へのパウロの手紙は、コロサイ人への手紙のように、彼がローマで捕らわれの身であったときに書かれた。」（患難から栄光へ下巻 172）

「パウロは『キリスト・イエスにある聖徒』と呼んでこれらの兄弟に手紙を送ったが、それは決して完全な品性を持った人にあてて書いたものではない。試練に抵抗して戦い、失敗の危険がある人々に書いているのである。パウロは彼らの目を『羊の大牧者、わたしたちの主イエスを、死人の中から引きあげられた平和の神』に向けた。そして神が『永遠の契約の血』によって、『イエス・キリストによって、みこころにかなうことをわたしたちにしてくださり、あなたがたがみむねを行うために、すべての良きものを備えてくださる』ことを保証した（ヘブル 13:20、21）

過失を犯した者がそれに気づいたとき、自尊心を失わせないように注意なさい。冷淡や不信頼によって失望させてはならない。『続くかどうかを見て、それから信頼しよう』と言ってはならない。このような不信頼が誘惑にあっている者を、よくつまずかすのである。…

わたしたちの努力にすぐ応じない人に会うと、失望してしまう。一筋の望みでもある間はその魂のために力を尽すのを決してやめてはならない。」（ミストリー・オブ・ヒーリング 142-144）

- a. 欠点があり過ちに陥っている仲間に対するわたしたちの態度は、どのように神の力を信じるわたしたちの信仰の深さを表しますか（ピリピ人への手紙 1:6-8）。

「わたしたちは他人の弱さを理解するように努めなければならない。

暗黒の鎖につながれてきた人々、決断力も道徳力もない人の心中の試練をほとんど知らない。最も哀れなのは、後悔の念に責められている人間の状態である。こういう人はちょうど打ちのめされ、よろめきつつ、土の中に没して行くようなものである。何一つはつきり見えない。頭はにぶり、どうしていいかわからない。かわいそうに多くの人が誤解され、認められず、悩み苦しみ、失われ、迷っている羊となっている。神をみいだすこともできず、許しと平安を心から切望している。

その心痛を深めるような言葉を一言も発してはならない。…

尊い魂を軽々しく誘惑者の手に渡してしまうには、あまりに高価な値が自己を犠牲にされたあがない主によって払われている。…

わたしたちは誘惑されている人の立場になってみる必要がある。遺伝の力、悪友や環境の影響、悪習慣の力を考えてみなさい。こういう感化の下にあっては、多くの人が墮落するのは不思議ではない。彼らを向上させようとする努力に彼らがなかなか応じないのはあやしむに足りない。

粗野で、あまり望みがないようにみえた人でも、福音を受け入れると、最も忠誠な信者、伝道者となることがよくある。こういう人は全く墮落しきっていたのではない。外見には、それが見られないが、中に感動しやすい善良な心がある。多くの者は、助け手なしに自力で更生しようと決してしないが、忍耐強い不断努力によって救うことができるかもしれない。こうした人はやさしい言葉、親切な思いやり、また確実な助けを必要としている。心の中に残っている、かすかな勇気を断ち切ってしまうぬように助言を要する。」（ミストリー・オブ・ヒーリング 143、144）

- b. どの目的をもって、神の言葉を研究すべきですか（ピリピ人への手紙 1:9-11）。

「神の愛がますます魂に満ちあふれることができるように、恵みのすべての手段が勤勉に活用されるべきである。『それによって、あなたがたが、何が重要であるかを判別することができ、キリストの日に備えて、純真で責められるところのないものとなり、イエス・キリストによる義の実に満たされ』るためである。あなたのクリスチャン生活は、活力に満ちた確固たるかたちをとらなければならない。あなたは聖書の中に示された高い標準に到達することができるし、もし神の子となりたければ到達しなければならない。あなたは立ち止まることはできない。前進するか、後退するかはのいずれかである。」—（教会への証 5 巻 264）

- a. 神がどのようにしばしば迫害や困難を、愛と恵みのすばらしい神のメッセージを広めるために用いられるかを述べなさい (ピリピ人への手紙 1:12-14)。

「貧しく、友人もいない捕らわれ人のパウロに、ローマ市民の金持ちや貴族階級の注意を引くことができるとは思われなかった。悪習が彼らにあらゆる華麗な誘惑を与え、彼らをみずから進んでやってくる獲物にした。しかし、彼らの圧制で労苦にやつれ、困窮に打ちのめされた犠牲者たちの中から、貧しい奴隷の中からさえも、多くの者たちがパウロの言葉に喜んで耳を傾け、キリストを信じる信仰のうちに、運命の過酷さの中にあって彼らを励ましてくれる希望と平和を見いだした。

使徒パウロの働きは身分の低い者たちから始まったが、その影響は広がって皇帝の宮廷にまで達した。」(患難から栄光へ下巻 153)

「神の恵みは、捕らわれの身であったパウロを支えて、試練の中で喜んでいことができるようにした。パウロはこの監禁が福音をひろめる結果になったと、信仰と確信に満ちてピリピの兄弟に書いている。…

パウロのこの経験の中に、われわれのための教訓がある。それは神の働かれる方法を示しているからである。主は、われわれには失敗であり敗北だと思われることから、勝利をもたらすことがおできになる。われわれは、神を忘れ、見えないものを信仰の眼で見上げることがせず、目に見えるものを見つめるという危険がある。不幸や災難に見舞われると、すぐさま神は無視しておられるとか残酷だと言って神をとがめる。神が、ある方面でのわれわれの有用さを断ち切ることが好ましいとお考えになることがあるが、われわれは、こうして神がわれわれの益となるよう働いておられることを考えてみもせずに嘆く。われわれは、こらしめが神の偉大なご計画の一部であり、苦悩のむちを受けてクリスチャンは、時には活発な奉仕に携わっている時よりもっと、主のために多くの事をするができるということを学ぶ必要がある。」(同上 174、175)

- b. もし 真理の種がまかれる異例な方法に失望するよう誘惑されたなら、何を思い出すべきですか (ピリピ人への手紙 1:15-18)。

「『神の変ることのない生ける御言』の『朽ちない種』は、それを撲滅しようとするサタンの働きによって、人々の心にまかれる(ペテロ第一1:23)。神の子らをそしり、迫害することによって、キリストのみ名があがめられ、魂は救われるのである。迫害とそしりによってキリストのための証人となる者の天において受ける報いは非常に大きい。」(祝福の山 43)

- a. なぜわたしたちはパウロの驚くべき証によって鼓舞されるのですか（ガラテヤ人への手紙 6:14; ピリピ人への手紙 1:19-21）。

「キリストの一番近くに立つ者は、この地上においてキリストの自己犠牲的な愛、すなわち、『高ぶらない、誇らない、……自分の利益を求めない、いらだたない、恨みをいだかない』ところの愛、また主の心を動かしたように、人類を救うために死にいたるまで、すべてを献げ、生き、働き、犠牲を払うように弟子の心を動かすところの愛、—そうした愛の精神を最も深く飲んだ者である（コリント第一 13:4, 5）。この精神はパウロの一生にあらわされた。パウロは、『わたしにとっては、生きることはキリストである』と言った。なぜなら彼の一生は人々に キリストをあらわしたからである。そして『死ぬことは益である』—キリストにとって益である。死そのものは主の恵みの力をあらわし、魂を主のもとに集めるであろう。『生きるにも死ぬにも、わたしの身によってキリストがあがめられる』と彼は言った（ピリピ 1:21, 20）。」（各時代の希望中巻 368）

「パウロはすべての真のクリスチャンはどうあるべきかについての生きた模範であった。彼は神の栄光のために生きた。…かつてはキリストの聖徒である人々を迫害する者であった彼が、今では世の前にキリストの十字架を掲げている。パウロの心は魂への愛で燃え上がった。そして彼は全エネルギーを人々の回心のために献げた。彼以上に自己を否定し、熱心で忍耐強い働きをなした者はいなかった。彼の命はキリストであった。彼はキリストの働きをした。彼が受けた祝福のすべては他の者を祝福するのに用いられるために非常に好都合なものとして重んじられた。」（SDA バイブル・コメント [E・G・ホワイト・コメント] 6 巻 1112, 1113）

「『わたしにとって生きることはキリストである』と〔パウロ〕は言明した。これは聖書全体が教えているクリスチャンであることの意味を簡潔に表現した最も完全な証明である。ここに福音の真理のすべてがある。」（同上 7 巻 903）

- b. わたしたちはこの地上での自分の義務に関して、キリストの再臨を先に見ながら、どのような見解を持つべきですか（ピリピ人への手紙 1:22-24; テモテへの第二の手紙 4:8; ヨハネによる福音書 14:3）。

「最後の大きな報いは、キリスト再臨の時に与えられるのであるが、神に対する真心からの奉仕には、現在の生活においても報いが与えられる。働き人は障害、反対、苦い胸の張り裂ける思いのする失望に会わねばならないであろう。彼は自分のほねおりに対する実を見ないかもしれない、しかしこうした事に直面しているときに、彼は自分の労働に祝福ある報いのあることを見いだす。人類のための無私の奉仕をするにあたって神に自分のすべてを任せる者はみな、栄光の主と協力しているのである。この思いがすべてのほねおりをこころよいものにし、意志を強め、どんなことが起ころうともそれに対して勇気をかきたててくれるのである。」（クリスチャンの奉仕 394）

- a. パウロの態度は、どのようにわたしたちのうちに希望を生み出しますか（ピリピ人への手紙 1:25-28）。

「神の忠実な使命者たちは、使命を携えて着実に前進しなければならない。彼らは天の武具を身につけて、恐れず、誇らかに前進し、接することのできる魂が、ひとり残らず現代に与えられた真理の使命を受けるまで、戦い抜くのである。」（患難から栄光へ上巻 236）

- b. キリストの模範は、わたしたちをどのように強めますか（ピリピ人への手紙 1:29, 30; イザヤ書 53:8-11）。

「裏切りと裁判の時に神の御子を支えたものは何であったか。このお方はご自分の魂の苦しみを見て満足された。このお方は永遠の広がりの方景をとらえ、ご自分の屈辱を通して許しと永遠の命を受けるべき人々の幸福をごらんになった。このお方は彼らの罪のために傷つけられ、彼らの不義のために砕かれた。彼らの平和の懲らしめはこのお方の上にあり、その打たれた傷によって彼らは癒された。このお方の耳は贖われた人々の叫びをとらえた。このお方は買い取られた人々がモーセと小羊の歌をうたうのを聞かれた。

わたしたちは将来について、天の祝福についての見解を持たなければならない。永遠の門口に立ち、この地上の生涯においてキリストと協力してきた人々に与えられる恵み深い歓迎を聞きなさい。キリストのために苦しむことを特権、また栄誉とみなしなさい。…

そこで贖われた人々は自分たちの注意を上げられた救い主へ向けさせた人々とあいさつをする。彼らは一致して、人類が神の命で測られる命を持つことができるために死なれたお方を賛美する。戦いは終わった。すべての苦難と紛争はやんだ。神の御座のまわりに贖われた者が立つとき、勝利の歌が天を満たす。」（教会への証 8 巻 43, 44）

個人的な復習問題

金曜日 10月2日

1. なぜわたしたちは少なくともほんのわずかな希望の兆しのある墮落した魂に耐え忍ばなければならないのですか。
2. 何回わたしは頑固でわがままな魂が驚くほどに変えられるのを見たことがありますか。
3. 神はどのようにわたしたちの試練を、ご自分の良き目的を成し遂げるためにお使いになることができますか。
4. 何がパウロの存在の本質的なモットー（座右の銘）であったかを述べなさい。
5. どのような方法で、わたしはよりよくパウロの生涯を、また何よりもキリストの生涯を反映することができますか。

あらゆる状況においてキリストに似ている

暗唱聖句：「何事も党派心や虚栄からするのでなく、へりくだった心をもって互に人を自分よりすぐれた者としなさい。おのおの、自分のことばかりでなく、他人のことも考えなさい。」（ピリピ人への手紙 2:3, 4）

推奨文献： 教会への証 5 巻 167-177, 477-490

「だれにでも礼儀正しくすることを身につけ、人々からしてほしいと思うことを、喜んで人々にするならば、人生の不幸の半分はなくなってしまうことであろう。自己誇張は、サタンの精神である。しかし、キリストの愛を心に持つものは、自分の利益を求めない愛をもつようになる。」（人類のあけぼの上巻 132）

1. 必要な資質

日曜日 10 月 4 日

- a. なぜわたしたちは真のクリスチャンの調和の価値についてパウロが表現したことを、正しく評価すべきなのですか（ピリピ人への手紙 2:1, 2; ローマ人への手紙 15:5, 6）。

「キリストはご自分の民を導いておられ、信仰の一致へと導いておられる。それはご自分が御父と一つであられるように、彼らが一つになるためである。意見の違いは譲らなければならない。こうしてすべての者が体への一致に至り、彼らが思いと判断において一つになることができるためである。」（教会への証 1 巻 324）

- b. そのような一致によって刈り取る喜びと、またどのようにしてのみ、達成することができるかを述べなさい（コリント人への第一の手紙 1:10; 詩篇 133:1-3）。

「家庭や教会内の不和や分裂の原因は、キリストから離れることにある。キリストに近づくことは、互いに近づき合うことである。教会と家庭が真に一致する秘訣は、折衝の仕方や運営の方法とか、困難を開閉しようとする超人間的な努力にはなく—これらのことも大いにしなければならないが—キリストとの結合にある。」（ア・ベンチスト・ホーム 191）

- a. すべてのクリスチャン信徒に、どの訴えが及んでいますか。それはなぜですか(ピリピンへの手紙 2:3)。

「虚栄、利己的な野心は、多くの魂がその上で破船し、多くの諸教会が無力になった岩である。献身をほとんど知らない人、神とつながりがほとんどない人々こそ、最も熱心に最高の場所を求め、自分の品性の弱さや欠点を自覚しない人である。」(教会への証 5 巻 174)

「様々な気質や品性の欠点を持つ人は、他人の欠点を見ることができるが、自分自身の過ちに関する知識は持っていないようである。…通常の人々には利己心、野心があつて、神のみ働きを傷つける。自己の関心は見失わなければならない。」(同上 418, 419)

「キリストの平安がない心は不幸であつて、不満に満ちている。その人はすべてに欠点を認め、また天の音楽そのものに不協和音を持ち込む。利己的な生活は悪の生活である。心が自己愛に満たされている人々は、自分の兄弟たちについての悪い思いをしまいこんで、神の器に敵対して語る。サタンの促しによって温かく熟したまま保たれた激情は、苦い泉となつて、絶えず他の人々の生涯を毒する流れとなつて出て行く。…

キリストに従うと主張するすべての人は、自らをより少なく、他の人々をより多く尊重しよう。共に前進せよ、共に前進せよ!一致にこそ、強さと勝利がある。不一致と分裂には、弱さと敗北がある。」(同上 488)

- b. 本物の繁栄の秘訣を説明しなさい(ピリピンへの手紙 2:4)。

「もしわたしたちの生活が聖なる香りに満ちているならば、もしわたしたちが他の人々に対して良い考えを持つことによって、また他の人々に良い行いをなすことによって、神に誉を帰すならば、山小屋に住もうが宮殿に住もうが気にしない。状況は魂の経験にほとんど関与しない。わたしたちのすべての行動に色どりを与えるのは、心にいだいている精神である。神と自分の人類同胞とに平和を得ている人は、みじめになり得ない。妬みはその人の心のうちになく、邪推はそこに居場所を見出さない。憎しみは存在することができない。神と調和している心は、この人生のいら立ちや試練を超越して引き上げられる。」(同上 5 巻 488)

「成功は、〔わたしたちの施設が〕私欲のない寛容さを働かせ、足場を固めるのに苦闘している施設に自分たちの豊かさを分かち合う割合に比例する。わたしたちの繁栄している施設は、神が生きて反映するようにと仰せになったが、なお存続に苦労している施設を支援すべきである。わたしたちの間には、本物の無我の愛の量が非常に限られている。」(同上 8 巻 137)

- a. 歴史上のこの段階において、何がわたしたちの考えと行動を特徴づけるべきですか (コリント人への第二の手紙 10:3-5; ピリピ人への手紙 2:5)。

「わたしたちはわたしたちの救い主、キリストの教えをより印象的にするために、キリストに宿っていただいた心と同じ心を持たなければならない。わたしたちの好き嫌いや他の人々に害を与える自己愛を求める心は克服されなければならない。あなたの心を神の平和に支配してもらいなさい。キリストはわたしたちの心の中で生きて働く力でなければならない。」(SDA バイブル・コメント [E・G・ホワイト・コメント] 7 巻 921)

「われわれはキリストから柔和と謙遜を学ぶために、キリストの学校にはいるのである。あがないは、魂が天国のために訓練される過程である。この訓練はキリストを知ることである。それは暗黒の君の学校で身につけた考え方、習慣、行為からの解放である。魂は神への忠誠に反する一切のものから救い出されねばならない。」(各時代の希望中巻 51)

- b. どのように、またなぜ、わたしたちは、キリストの態度を反映するべきなのですか (ピリピ人への手紙 2:6-8)。

「イエスは自らに、わたしたちの性質を取られ、ご自分の使命を果たすため、すなわち失われた者を救うために、ご自分の栄光、大能、また富をわきへおかれた。このお方は仕えられるためではなく、他の人々に仕えるために来られた。イエスはそののしられ、虐待され、侮辱されたとき、報復なさらなかった。『ののしられても、ののしりかえさ』ない。人間の残酷さがこのお方を痛々しいむちと傷に苦しめたとき、おびやかすことをなさらず、ご自身を正しい裁きをなさる方に委ねておられた。使徒パウロは自分のピリピの兄弟たちに次のように訓告した。『キリスト・イエスにあっていただいているのと同じ思いを、あなたがたの間でも互に生かしなさい。キリストは、神のかたちであられたが、神と等しくあることを固守すべき事とは思わず、かえって、おのれをむなうして僕のかたちをとり、人間の姿になられた』。僕はその主人にまさるものであろうか。キリストはわたしたちにご自身のご生涯を模範として与えてこられた。そしてわたしたちが一つ一つの侮辱に嫉妬し、一つ一つの不当な扱いに、それが思い込みだろうと本物であろうと、すぐ怒るとき、このお方を辱めるのである。自己を防衛し、自分自身の尊厳を維持する準備ができていないことは、高尚な思いの証拠ではない。わたしたちは報復の精神や、怒りの発散によって魂を傷つけるよりは、100 回不当に苦しむほうが良いのである。神から得るべき強さがある。このお方は助けて下さる。このお方は恵みと天来の知恵を与えることがおできになる。もしあなたが信仰のうちに求めるならば、受けるであろう。しかし、あなたは見張り、祈らなければならない。見張り、祈り、働きなさい。これがあなたの合言葉であるべきである。」(教会への証 2 巻 426, 427)

- a. 父なる神は、キリストによって払われた無限の犠牲を、どのようにご覧になりますか。わたしたちはどのように見るべきですか（ピリピ人への手紙 2:9-11）。

「わたしたちは誰の味方だろうか。世はキリストを追い出し、天はこのお方を受け入れた。人間すなわち有限な人間が命の君を拒絶した。わたしたちは最高の主権者なる神は天にこのお方を迎え入れられた。神はこのお方を引き上げられた。人はいばらの冠をこのお方にかぶらせ、神は王家の冠をこのお方にかぶらせられた。わたしたちすべての者は率直に考えなくてはならない。あなたはこのお方、キリスト・イエスに自らを支配していただくであろうか、それともバラバを選ぶだろうか。…キリストの死はこのお方を受け入れ信じるすべての人にとって希望と永遠の命である。」（SDA バイブル・コメント [E・G・ホワイト・コメント] 5 巻 1107）

- b. 道徳的な力と意志の力に弱いありのままのわたしたちは、なぜ先に自分から救い主に明け渡さなければなりませんか（ピリピ人への手紙 2:12, 13）。

「もしあなたが真に信仰の生活を始めたならば、あなたは自らをあますことなく主に捧げてきたのである。そしてこのお方はあなたを受け入れて、ご自分の目的に従って形作り、形成される。それはあなたが尊い器となるためである。あなたはこのお方のみ手のうちにしなやかであろうと、またこのお方がどこへ導かれてもついて行こうと熱心に願うべきである。あなたはそのとき、主がご自分の計画を実行なさることに信頼しているのであり、同時に、恐れおののいて自分自身の救いの達成に努めることによって、このお方に協力しているのである。…

純粋な宗教は意志と関係がある。意志は人間の性質における支配的な力であり、他のすべての機能をその支配下に置く。意志は嗜好や傾向ではなく、人の子らのうちに働き、神への従順もしくは不従順へいたらせる決定的な力なのである。」（教会への証 5 巻 512, 513）

「あなたは、意志の真の力を理解するまでは、危険な状態にある。あなたはすべてのことを信じ約束するかもしれないが、あなたの約束もあなたの信仰も、自分の意志を信仰と行動の側に置くまでは何の価値もない。もしあなたが自分の意志の力をつくして信仰の戦いをたたかうならば、勝利するのである。あなたの感情、あなたの印象、あなたの心情は、信用できない。なぜなら、当てにならないからである。…

しかし、あなたは絶望する必要はない。…あなたは、自分の意志を、イエス・キリストのご意志に明け渡すべきである。こうするならば、神は直ちに所有して下さり、あなたのうちに働き、ご自分のよしとするとことをなして下さる。あなたの性質全体がそのときキリストの御霊の支配下に置かれ、あなたの思想でさえ、このお方に服するのである。」（同上 513, 514）

- a. わたしたちが勝利しなければならない一般的な問題をいくつかあげなさい（ピリピ人への手紙 2:14, 15）。

「神の愛が魂に行き渡らなければならない。さもなければ義の実は表れない。虚栄や誇り、あるいは力や利益への愛にふけることは安全ではない。あなたにいら立ち、非難し、文句を言う力があり、あなたがこのような方法で虐待する相手があなたを止められないからと言って、そうすることは、最悪な利己心の一面である。家族の輪や教会の中で不一致を生じさせるのは利己心である。クリスチャンらしくない心は、他人のうちに何も存在しないのに大変な悪があるのを識別できると考え、小さな事がらを、大きく拡大されるようになるまで考える。これらの小さな事がらを解決する働きは、ある人々にとって大きなことに思われるが、神はご自分に従う者たちが自分でなすように任せてこられた。これらの不幸な相違が、教会の中で多くの人が汚される苦い根になるまで、残ることがないようにしよう。キリストが心のうちにおられるとき、それは神と人への愛によってやわらげられ、征服されて、いらだち、あら捜し、争いは存在しなくなる。心のうちにあるキリストの宗教は、それを持つ人のために、最高位を求めるこれらの激情に対する完全な勝利を得させる。」（教会への証 4 巻 610）

- b. パウロがエパフロデトを推奨した言葉から、わたしたちはどのような重大な現実を思い起こすべきですか（ピリピ人への手紙 2:21, 25-27, 30）。

「キリストはご自分が天に残りながら、ご自分の御使たちをこの墮落した世界に送られたのではなかった。そうではなく、ご自身が宿営の外へ行かれ、恥辱を負われた。このお方は悲しみの人となり、苦悩を知っておられた。ご自身がわたしたちの欠陥を引き受けられ、わたしたちの弱さを担われた。そしてこのお方に従う人々のうちに自己否定がないとき、神はクリスチャンの名を否定するものとみなされる。キリストと一つであることを公言しながら、ぜいたくで高価な衣服、家具、食物を望む利己的な願望にふける人々は、名目的なクリスチャンである。クリスチャンであるということは、キリストのようであるという意味である。」（管理職への勧告 54）

個人的な復習問題

金曜日 10月9日

1. なぜクリスチャンの一致が重要なのですか。それはどのようにによってのみ、到達できますか。
2. 個人にとっても、施設にとっても、成功の秘訣は何ですか。
3. キリストが人類のためにして下さったことを、どのように要約できますか。
4. わたしたちの汚点ある記録にもかかわらず、イエスは、わたしたちのために何をしたいと願っておられますか。どのようにですか。
5. わたしはなぜ文句を言う傾向があるのでしょうか。何がこの悪習に勝利するのを助けてくれますか。

イエスをよりよく知ろうと切望する

暗唱聖句：「すなわち、キリストとその復活の力とを知り、その苦難にあずかって、その死のさまとひとしくなり、なんとかして死人のうちからの復活に達したいのである。」（ピリピ人への手紙 3:10, 11）

推奨文献： 教会への証 3 卷 22-32; 生き残る人々 351-356

「聖書を学んで救い主を仰ぎ見るとき、われわれの魂のうちには、信仰と賛美と愛の神秘的な能力が目ざめる。キリストのみ姿を見つめていると、敬慕するそのみかたちにだんだん似て来るのである。」（教育 228）

1. 信仰による義

日曜日 10 月 11 日

a. パウロは、どのように肉の功績だと思われるものに信頼することなく、キリストを信じる信仰の必要を高く掲げていますか（ピリピ人への手紙 3:1-3）。

「わたしたちが、イエスに近づき、主の品性の純潔さを明らかに認めれば認めるほど、罪がどれほどはなはだしく恐ろしいものであるかをさと、自己を称揚する気持ちにはなれなくなる。…」

使徒にしても、預言者にしても、自分には罪がないと主張した者は一人もいない。神に最も近く生活した人、知りつつ罪を犯すよりは、むしろ生命を犠牲にした人、また、神からの特別な光と力とを与えられた人は、みな、自分たちの性質の罪深いことを告白している。彼らは、肉に信頼をおかず、自分たちの義を誇らず、キリストの義に絶対の信頼をおいた。キリストをながめる者もみな、そうなのである。

クリスチャンの経験が進むにつれて、悔い改めも深まっていく。『その時あなたがたは自身の悪しきおこないと、良からぬわざとを覚えて、その罪と、その憎むべきことのために、みずから恨む』と主が言っておられるのは主がおゆるしになった人びと、すなわち主がご自分の民としてお認めになった人びとに対してである（エゼキエル書 36:31）。… そのとき、わたしたちは、口を開いて、自己をほめない。わたしたちのこうした力は、ただキリストによって与えられることをさとする。」（キリストの実物教訓 140、141）

- a. パウロがキリストへ改心する前のかつての態度を述べなさい（ピリピ人への手紙 3:4-6）。

「ユダヤの神学校では、神のみ言葉よりも、人間的な思索が重んじられ、学者たちの解釈や慣習によって、神のみ言葉から力が奪われていた。自大主義、権勢欲、猜疑的な排他心、頑迷でおうへいな自負心—こうしたものが当時の教師たちを支配していた主義と動機であった。

ラビたちは、他国民に対してばかりでなく、自国の民衆の前に、自分たちの優越性を誇っていた。彼らは、ローマの圧制者たちに激しい憎悪を持ち、武力に訴えて、国家の主権を回復する決意をいだいていた。彼らは、自分たちの野心的な陰謀とはおよそ正反対な平和の使命を叫ぶイエスの弟子たちを憎みそして殺した。サウロは中でも最も残忍で冷酷な迫害者のひとりであった。」（教育 62、63）

- b. パウロは、完全にイエスに明け渡すこの上ない喜びについて、何を説明していますか（ピリピ人への手紙 3:7, 8）。

「使徒たちは自分の命を自分たちにとって大切なものとはみなさず、キリストの御名のために苦しむに足る者とみなされたことを喜んだ。パウロとシラスはすべてを失った。彼らはむちで打たれ、最も苦しい体制で冷たい土牢の床にまったく温情のない方法で投げ出された。彼らの足は木にくくりつけて上にあげられた。そのとき、獄吏の耳には、不満や文句を言う声が届いたであろうか。ああ、そうではない！牢獄の中から、喜びの歌と神への賛美が夜中の沈黙を破ったのであった。これらの弟子たちは、自分の贖い主のみ事業を思う深く熱烈な愛に励まされていた。そのために彼らが苦しんだのであった。

神の真理がわたしたちの心を満たすと、わたしたちの愛情を飲みつくし、わたしたちの命を支配する。わたしたちはまた真理のために苦しむことを喜びとみなす。牢獄のかべも、殉教者の火柱も、偉大な働きにおいてわたしたちを脅かしたり、妨げたりすることができない。ああ、わが魂よ、カルバリーに来なさい。神の御子とのへりくだりの生涯に注目しなさい。このお方は悲しみの人で病を知っていた。このお方の屈辱を見よ、ゲッセマネにおけるこのお方の苦悩を見よ。そして自己否定が何であるかを学びなさい。あなたは欠乏に苦しんでいるであろうか。天の大君キリストも苦しめたのである。このお方の貧しさはわたしたちのためであった。わたしたちは富んでいる者の部類に入るであろうか。このお方もそうであった。しかし、このお方はわたしたちのために貧しくなることに同意された。それはわたしたちが、このお方の貧しさを通して、富んだ者になるためであった。キリストのうちに具体化された自己否定がある。」（教会への証 3 巻 406、407）

- a. パウロのどの目標を、わたしたちは今日反映しようと熱心であるべきですか（ピリピ人への手紙 3:9）。

「まことの証人は『富む者となるために、わたしから火で精錬された金を買ひ、また、あなたの裸の恥をさらさないため身につけるように白い衣を買ひなさい』と言われる。この裸や貧乏の恥とは何であろうか。それは神がすべての人が神から祝福を受けることができるように十分な備えをなさったにもかかわらず、わたしたち自身を自己義で覆うことであり、わたしたち自身を神から離すことである。」（SDA バイブル・コメント [E・G・ホイト・コメント] 7 巻 965）

「神を愛する魂は疑いの霧の上に出る。彼は明るくて広く、深い生きた経験を持ち、クリスチャンらしく柔和になる。彼の魂は神にゆだねられ、キリストと共に神の内に隠される。彼は無視、ののしりの言葉や侮辱の試練に耐えることができるであろう。なぜなら彼の救い主がこれらのすべての試練を受けておられるからである。彼は困難が彼を襲う時に、いらだったり落胆したりしないであろう。なぜならイエスは衰えず、落胆もされなかったからである。真のクリスチャンはみな良い業の力や功績によってではなく、信仰を通して着せられたキリストの義によって強くなるであろう。人々の間を歩まれた時の天の君のように柔和で謙遜な心を持ち、心が清く、汚れない者となるのは素晴らしいことである。」（同上 907）

- b. 本物のクリスチャン生活の焦点を説明しなさい（ピリピ人への手紙 3:10, 11; ペテロの第一の手紙 2:21）。

「〔使徒たち〕は、自己否定と十字架を通して生きた道を指し示した。彼らは自分たちの救い主の苦しみにおいてこのお方と交わりを持っていた。そして彼らの最大の願望は、キリスト・イエスを、しかも十字架につけられたお方を知ることであった。彼らは自分自身の都合を考えることなく、自分たちの命を惜しいとも思わなかった。彼らは楽しむためにではなく、善をなすために、またキリストが死なれた魂を救うために生きた。」（教会への証 3 巻 26）

「人間の思いと心と魂とが生まれつきのままの性質に勝利するのは、キリストとの交わり、生きた救い主と個人的に接触することによってである。さまよい出た者にむかつては、全能の手が彼をささえていること、またキリストがその無限の人性によって彼をあわれんでおられることを語らなければならない。あわれむことをせず、助けを求める叫びに耳を傾けない律法と権力とを信じるだけでは十分ではない。彼は、あたたかい手を握り、同情にあふれた心に信頼する必要がある。神が常に彼のそば近くにおられて、あわれみ深い愛をもって、見守っておられることを、彼の心に銘記させなければならない。常に罪を悲しまれる天の父の心、なおさしのべられている天の父の手を彼に考えさせなければならない。」（キリストの実物教訓 365、366）

- a. パウロは、キリストに従うすべての者の継続的な日々の召しを、どのように描写しましたか (コリント人への第二の手紙 7:1; ピリピ人への手紙 3:12-14; コリント人への第一の手紙 15:31)。

「罪がないと公言する傲慢な自己義の主張と、使徒のつつましい言葉には、著しい対照がある。しかしなお、彼の兄弟たちへの訓告にあのような力を与えたのは、彼自身の生涯の純潔と忠実さであった。」(きよめられた生涯 86)

「ああ、すべての人が、天の賜物を選択し、いかなる破壊者からも権利が守られている嗣業、すなわち終わりのない世界の相続人となることができればよいのだが！ああ、世ではなく、よりよい嗣業を選びなさい。前進しなさい。キリスト・イエスにあるあなたの高い召しという賞与を目指して、あなたの道を急ぎなさい。」(クリスチャン教育の基礎 235)

「わたしたちは、いつか次の自分の戦いがどれほど強いものになるかはわからない。サタンは生きていて、活動しているため、わたしたちは彼に抵抗するための助けと強さを真剣に神に叫び求める必要がある。サタンが統治しているかぎり、征服すべき自己があり、克服すべきからみつく罪があるのであり、止まる場所はない。わたしたちが到達して完全になしとげたとと言える地点はない。…

クリスチャン生涯は絶えず進軍である。イエスは、ご自分の民の精練者であり、清める方として座しておられ、このお方のみかたちが完全に彼らのうちに反映されるとき、彼らは完全であり、聖なるものであり、昇天の準備ができるのである。」(教会への証 1 巻 340)

- b. しばしばどの実際的な誘惑が、霊的なわなとなりますか (ピリピ人への手紙 3:18, 19)。

「自己否定と動物的な食欲に対する抑制は、健康と道徳の改善された状態に高め、確立するために、また墮落した社会を純潔にするために必要である。飲食において原則をやぶるごとに、知覚力を鈍くする。…万事における節制は、健康と善良なクリスチャン品性の発達と成長に必要である。

自分の身体的生命において神の律法を犯すことは、シナイ山で語られた神の律法をゆつくりと犯すことに他ならない。光が自分たちのもとにもたらされた後に、食欲によって支配される代わりに原則から食し飲もうとしない人は、他の事がらにおいても原則によって支配されることに関して堅固でない。飲食における改革の主題についての動揺が品性を発達させ、『自分の腹を神』とする人々をまちがいに明るみに出すのである。」(健康についての勧告 38, 39)

- a. 今日、どの訴えと約束が わたしたちの心の意欲をかき立てますか（ピリピンへの手紙 3:20, 21）。

「神の民—真のイスラエル—は、すべての国々に散らばっているけれども、地上においては国籍を天に持つ旅人にすぎない。」（人類のあけぼの下巻 55）

「愛する兄弟姉妹がた。われわれは、キリストが間もなく来られることと、われわれは、罪の世界に伝えるべき最後のあわれみの使命を持っていることを、心から信じているだろうか。われわれの模範は、正しいものであろうか。われわれは、自分たちの生活と聖い行状とによって、われわれの卑しいからだをご自身の栄光のからだと同じかたちに変えてくださるわれわれの主、救い主イエス・キリストの輝かしい出現を待ち望んでいることを、周囲の人々に示しているだろうか。われわれは、これらのことを十分に信じ、理解してはいないのではないかと思う。われわれが宣言している重大な真理を信じる者は、その信仰を実行しなければならない。娯楽やこの世に心を向けさせる物の追求が多すぎる。心は、衣服のことに奪われ過ぎ、舌は、軽率でつまらぬ話をしすぎて、われわれの公言が偽りであることを示している。それは、救い主が天から来られることを待望していながら、われわれの生活態度が天に向けられていないからである。

天使たちは、われわれを守り保護している。われわれは、たびたびつまらぬ会話をしたり、むだ話しや冗談を言ったり、また、不注意で愚かな状態に陥ったりして、天使たちを悲しませることがある。時には、勝利を得ようと努力して、勝利することもあるが、もしもわれわれがそれを持続させずに、同じような不注意で無関心な状態に陥って、誘惑に耐えられず、敵に抵抗することができないならば、われわれは、黄金よりも尊い信仰の試練に 耐えることができない。われわれは、キリストのために苦しんでおらず、患難をも喜んでいないのである。

クリスチャンの勇氣と原則に従って神に仕えることが、大いに欠けている。われわれは、自分喜ばせることを求めないで、神に榮譽と栄光を帰し、われわれのなすこと言うことがすべて、ただ神の栄光のためでなければならない。」（初代文集 210、211）

個人的な復習問題

金曜日 10月16日

1. 何がわたしを自己称揚から守りますか。
2. パウロの驚くべき品性の変化を述べなさい。
3. 何がわたしの生涯の焦点となるべきですか。
4. 食欲における度を越した放縦は、わたしの靈性に、どのように影響しますか。
5. わたしのクリスチャン成長を妨げるであろうわなをいくつかあげなさい。

天によって強化される

暗唱聖句：「わたしは貧に処する道を知っており、富における道も知っている。わたしは、飽くことにも飢えることにも、富むことにも乏しいことにも、ありとあらゆる境遇に処する秘けつを心得ている。わたしを強くして下さる方によって、何事でもすることができる。」（ピリピ人への手紙 4:12、13）

推奨文献： 教会への証 2 巻 594-597; 患難から栄光へ下巻 153 - 160

「自分の個人的な救い主としてキリストと共に働くことが、あなたの強さであり、あなたの勝利であることを覚えていなさい。これこそ、すべての人が果たすべき役割である。こうする人々には次の保証がある。『彼を受け入れた者には神の子となる力が与えられた。』」（教会への証 7 巻 39）

1. 同情

日曜日 10 月 18 日

a. パウロが他の人々を励ました方法から、何を学ぶべきですか（ピリピ人への手紙 4:1）。

「パウロは『キリスト・イエスにある聖徒』と呼んでこれらの兄弟に手紙を送ったが、それは決して完全な品性を持った人にあてて書いたものではない。試練に抵抗して戦い、失敗の危険がある人々に書いているのである。…

過失を犯した者がそれに気づいたとき、自尊心を失わせないように注意なさい。冷淡や不信頼によって失望させてはならない。『続くかどうかを見て、それから信頼しよう』と言ってはならない。このような不信頼が誘惑にあっている者を、よくつまずかすのである。」（ミストリー・オブ・ヒーリング 142、143）

「神と和解をしているという保証によって、思いと魂の宮を快活に啓発すること、またわたしたちがキリストを通して永遠の生命を持つという希望、そして他の人々を祝福するという喜びは、少しも悲しみをもたらすことのない喜びである。」（今日のわたしの生涯 177）

b. パウロが何人か個人の名を挙げた意義は何でしたか（ピリピ人への手紙 4:2, 3; ヨハネの黙示録 20:15）。

- a. パウロは牢獄から、どのような注目すべき訴えをしましたか（ピリピ人への手紙 4:4）。

「闇の中に落ち込んでも、主を賛美しなさい。誘惑のうちにあってもこのお方をほめ讃えなさい。『あなたがたは、主にあつていつも喜びなさい。繰り返して言うが、喜びなさい。』。それがあなたの家族に陰鬱と闇をもたらすであろうか。否、そうではない。それは日光をもたらす。あなたはこうして、栄光の御座から永遠の光線を集め、それらをまわりにまき散らす。この働きに携わるようにと訓告する。この光と命をあなたのまわりにまき散らしなさい、あなた自身の道ばかりではなく、あなたと交わる人々の道にも。あなたのまわりにいる人々をより良くすること、より向上させること、彼らに天と栄光を指し示すこと、彼らに地上の万物の上にあるもの、永遠の実体、不死の嗣業、不朽の富を求めるように導くこと、これをあなたの目標としなさい。」（教会への証 2 巻 593, 594）

「あなたの気質がどうであろうと、神はそれをうるわしくキリストに似たものにかたちづくることができる。生きた信仰を働かせることによってあなたは神のみ思いと合わないすべてのものから分離できる。こうして天を地上にいるあなたの生活の中に持ち込むのである。こうするとき、あなたは一步ごとに日光を得るようになる。敵が魂を闇で取り囲もうとするとき、信仰を歌い、信仰を語りなさい。そうすると、あなたは自分が歌ったものや語ったものを得て、自分自身が光のうちにいることを見出すようになる。

わたしたちは自らに対して苦悩や喜びの洪水の門を開く。もし自分の思いが問題や地上のささいなことに没頭するなら、自分の心が不信、陰鬱、悪い予感で満たされる。もしわたしたちが自分の愛情を上にあるものにおくなら、イエスのみ声がわたしたちの心に語りかけ、つぶやきはやみ、悩ませる考えは、自分の驕い主への賛美のうちに失せてしまうのである。」（両親、教師、生徒への勧告 233, 234）

- b. 忙しくストレスにつかれる世界で、いつも思いにとめているべきことは何ですか（ピリピ人への手紙 4:5-7）。

「謙そんな祈りに答えて、神が力と知恵とを示されるのは、わたしたちが困難な立場にたつときである。祈りをきき、祈りに答えられる神に信頼なさい。どんな危機にも、神ご自身があなたを助けることのできるものであることをお示しになるであろう。人間を創造し、驚くべき肉体と知能と霊の力をお授けになった神は、ご自分がお与えになった生命を保持するのに必要なものをお与えにならないはずがない。」（ミンスリー・オブ・ヒーリング 176）

- a. キリストを通しての勝利のために不可欠な要素を挙げなさい（ピリピ人への手紙 4:8）。

「神が御霊によって心に働かれる時、人は神と協力して働かねばならない。魂を弱め、また損なうだけの事を考えたり、手を伸ばしたりするのを止めて、その思いは義務に忠実な抑制されたものとならねばならない。口の言葉が天に受け入れられ、交わる人々に役立つものとなるには、思いが純潔で心に思いめぐらせることは清くなくてはならない。…

山上の説教で、キリストは弟子たちに神の律法の広範囲に及ぶ原則を提示された。このお方は聴衆に、悪い欲望が実際に遂行される前に、思いによって律法は犯されるのだとお教えになった。わたしたちには思いを抑制し、神の律法の支配下に置く義務がある。わたしたちには天の事柄を熟考するのに用いることができる高貴な精神力が主によって与えられている。神は魂が神の命の内にあって絶えず進歩し続けることができるように、豊富な備えをなさった。神は知識と徳におけるわたしたちの成長を助けるための作用（媒介）を至る所に置いておられる。それなのにこれらの作用が感謝されたり喜ばれたりすることのなんと少ないことであろうか。思いが地上の事、感覚的なことそして卑しいことに向けられることがどんなに多い事だろう。わたしたちは時間と思いをありきりの取るに足りない世の事柄に当てて永遠の命にふさわしいことには大きな関心を払おうとしない。高貴な精神力は集中する価値のある主題に用いられることがないので衰退している。（SDA バイブル・コメント 3 巻 1145）

- b. パウロが生涯において培った並外れた精神的訓練を述べなさい（ピリピ人への手紙 4:11, 12）。

「幸福を与えるのは富でも知力でもない。それは道徳的価値である。真のいつくしみ深さは、天から真の偉大さとみなされる。道徳的愛情の状態が、人の価値を決める。人は財産や知力を持っても、善のあかあかとした火が心の祭壇に燃えたことがないゆえに、その良心が焼き印をおび、黒くされ、利己心と罪に焦げてくずれやすくなっているがゆえに価値がないこともある。」（教会への証 2 巻 305）

「足ることを知る信心は、大きな利益である。ここに幸福の真の秘訣と魂と体の本当の繁栄がある。」（同上 1 巻 542）

- a. キリストのうちに宿ることによって、どれほどの範囲までわたしたちは変えられ、力を受けますか（ヨハネによる福音書 15:5; ピリピ人への手紙 4:13）。

「わたしたちは今弱い信仰を持っているわけにはいかない。気の抜けた怠惰で不精な態度のうちにいるのは安全ではない。能力の一点一点が用いられ、鋭く落ちて着いた深い考えがなされなければならない。どんな人の知恵でも、この時代において計画し、考案するのに十分ではない。神のみ前に、すべての計画を広げ、断食をもって、また主イエスの前に魂をへりくだらせて、自分の道を主に委ねなさい。たしかな約束は、このお方はあなたの道を導かれる、である。このお方は資源において無限である。イスラエルの聖なるお方、天の万軍をその名によって呼ばれるお方、天の星をその場所に支えておられるお方が、個人的に、ご自分の守りのうちにあなたを有しておられる。」（セクレット・メッセージ 2 巻 364）

「自信のない者は、独立独行の精神に欠けているために苦労や責任を避けたがるが、このような人には神に信頼することを教えなければならない。そのままでは世の中の役に立たない人間、おそらくは無力なやっかい者にすぎない多くの人間が、このようにして使徒パウロと同じように『わたしを強くして下さるかたによって、何事でもすることができる』と言うことができる。」（教育 303）

「教会がどの時代でも自分の罪を捨て、真理を信じ、そのうちに歩んだときはいつでも、神に尊ばれてきた。信仰と謙遜な従順のうちには、世が持ちこたえられない力がある。神の民との関連において、神のみ摂理の秩序は漸進的であり、聖潔の道におけるクリスチャン品性の完全における継続的な前進である。はっきりとした神の光と知識と愛のうちにますます高くのぼり、終りの時にまで至る。」（教会への証 5 巻 484）

「過去にどんな過失や失敗があろうと、神の助けによってこれに勝利することを得、」（ミストリー・オブ・ヒーリング 501）

- b. 思いやり深い惜しみなさの偉大な価値を説明しなさい（ピリピ人への手紙 4:14–19）。

「神の子らに仕えることで神に自分の命をささげた者は、宇宙のすべての資源を支配されるおかたと連なるのである。彼の命は変わることのない約束の黄金の鎖によって、神の命と結ばれる。苦難と窮乏の時に主は彼を見捨てられない。…さらに最終の窮乏の時、あわれみ深い者は情け深い救い主のあわれみの中に避難所を見いだす。そして永遠の住居に受け入れられるのである。」（祝福の山 29）

- a. どの特別な改心者のグループは、自分が困難な状況のうちにいるのを見出したすべての人を、実際に鼓舞しますか（ピリピ人への手紙 4:21, 22）。

「ネロの宮廷の中でさえ、十字架の勝利があった。不道德な王の墮落した臣下から、神のむすことなる改宗者が出た。これらの人々は、こっそりとではなく公然とクリスチャンであった。彼らは自分たちの信仰を恥としなかった。」（患難から栄光へ下巻 155）

「すべてのクリスチャンには、自分の主人の奉仕においてなすべきことがある。わたしたちは自分自身の安逸や都合を求めるべきではない。かえって、キリストの王国を建設することを第一に考えるべきである。…

神はご自分の子らをさまざまな地域へ散らし、真理の光が地をとりかこんでいる道徳的な闇のただ中で輝き続けることができるようになさる。わたしたちのまわりの闇が深ければ深いほど、神のためにわたしたちの光が輝く必要は大きい。わたしたちは大変な困難と試練の状況に置かれるかもしれないが、これはわたしたちがみ摂理によって、割り当てられた立場にいないという証拠ではない。パウロの時代にローマにいたクリスチャンたちの中で、使徒は『カイザルの家の者たち』について述べている。キリスト教にとって、当時残酷で放蕩なネロの下にあったローマの宮廷ほど好ましくない道徳的雰囲気は他になかった。それでも、皇帝に仕えながら、キリストを受け入れた人々は、自分たちの改心の後に、自分に与えられた地位と義務を去る自由があるとは感じなかった。魅惑的な誘惑、火のような反対、恐ろしい危険に直面しながら、彼らはキリストのための忠実な証人であった。

だれでも完全に神の恵みにより頼む人は、自分の生涯を真理に対するたえざる証とする。だれも真実で忠実なクリスチャンになれない場所に置かれることはない。どれほど障害が大きくても、神に従うと決心した者はみな、前進しようとするときに戸が開かれるのを見出すのである。

反対の感化力のただ中で神に対する自分の忠誠を保つ者は、最高の価値のある経験を得つつある。彼らの強さは、困難を克服するたびに、誘惑に勝利するたびに増し加わるのである。」（教会への証 5 巻 182, 183）

個人的な復習問題

金曜日 10月23日

1. 強情な魂を助ける際に、どうしたらもっと効果的になりますか。
2. わたしたちの思想を選ぶ際にみいだす驚異的な影響力を説明しなさい。
3. わたしはどのような種類のことを考えるべきですか、また考えるべきではありませんか。
4. キリストのうちに宿るときにもたらされる力を説明しなさい。
5. カイザルの家に住んでいたクリスチャンたちから、何を学ぶことができますか。

ふさわしく歩む

暗唱聖句：「主のみこころにかなった生活をして真に主を喜ばせ、あらゆる良いわざを行って実を結び、神を知る知識をいよいよ増し加えるに至ることである。更にまた祈るのは、あなたがたが、神の栄光の勢いにしたがって賜うすべての力によって強くされ、何事も喜んで耐えかつ忍び」（コロサイ人への手紙 1:10, 11）

推奨文献： 教会への証 2 巻 71-77; 同 8 巻 286-289

「こうしてパウロは、コロサイの信者たちに彼の願いを書きあらわした。キリストに従う者の前に示されたこれらの言葉は、実に高い理想をもっている。それらはクリスチャン生活のすばらしい可能性を示し、神の子らが受ける祝福には限りがないことを明らかにしている。」（患難から栄光へ下巻 163）

1. わたしたちのための模範

曜日 10 月 25 日

- a. 使徒パウロは、コロサイの信徒たちの霊的な状況に対する自分の深い信頼を、どのように表現していますか（コロサイ人への手紙 1:1-6）。

「わたしにコロサイ人への手紙第一章と第二章は世界のどこであろうとも、わたしたちの教会のあるべき姿を描写しているものであることが示されている。」（SDA パブル・コメンタリ [E・G・ホット・コメント] 7 巻 906）

- b. この信仰が動機となって、パウロに何をさせていますか（コロサイ人への手紙 1:7-11）。

「[コロサイ 1:9-11 引用]。これは何と完全な祈りであろうか。わたしたちが特権として受けることのできる祝福には限りがない。わたしたちが神の御旨を深く知り(神の御旨の知識で満たされる)』ことができる。もし神が祈りに答えられないとしたら、聖霊がパウロに靈感を与えて、兄弟たちのために祈るように導かれることはなかったであろう。それゆえにわたしたちは神の御心を神の民が一層はつきり知る必要がある時に示されるということが分かる。」（同上）

- a. 使徒が描写している栄光に満ちた経験を述べなさい。またわたしたちは、そのうちに宿ることによって、どのように自分の信仰を強く保つべきですか（コロサイ人への手紙 1:12-14）。

「われわれは、神がお与えになった自由の中に固く立って、真理を喜んでいなければならない。神は、われわれが、行かなくてもよいのに誤りを聞きに行くのを、お喜びにならない。なぜなら、意志の力によって人々に誤りが強いられているこれらの集会に、神がわれわれをつかわされるのでないかぎり、神は、われわれを保護されないからである。天使たちは、われわれを守護することをやめる。そして、われわれは、敵に攻撃されるままに放置され、サタンと彼の悪天使たちの力によって、暗くされて弱められる。そしてわれわれの回りの光は、暗黒によって汚される。

...

われわれは、作り話を聞いてむだに費やす時間はないことを、わたしは見た。われわれの心は、このようにして他にそらされることなく、現代の真理に満たされていなければならない。そして、われわれの立場について、もっと深い知識を得るように知恵を求め、柔和をもって、聖書からわれわれの希望の理由を説明することができるようにならなければならない。」（初代文集 231、232）

『神は、わたしたちをやみの力から救い出して、その愛する御子の支配下に移して下さった』（コロサイ 1:13）。救いはすべてみことばのうちに提供されている。みことばをうけいれるときに、救いがある。」（各時代の希望中巻 35）

- b. 聖句と聖句を比較することによって、キリストの先在性の概念は、どのように明確になりますか（コロサイ人への手紙 1:15, 18; 詩篇 89:20, 27 にある「ういご」という言葉と比較; サムエル記上 16:11-13）。

「わたしたちはただ一つ完全な神の写真を持っているが、これはイエス・キリストに他ならない。」（SDA パイブル・コメント [E・G・ホワイト・コメント] 7 巻 906）

- c. 何がキリストを神としてあらわしますか（コロサイ人への手紙 1:16, 17; ヨハネによる福音書 1:1-3; ヘブル人への手紙 1:2）。

「神のみ言葉であるキリストを通じて、実在者である神が人間を創造し、知能をおさずけになられたのである。」（ミストリー・オブ・ヒーリング 388）

「『いっさいのものは、御子によって造られ、御子のために造られたのである。彼は万物よりも先にあり、万物は彼にあって成り立っている』と言明している。すべての世界を空間にささえ、宇宙の万物を整然たる秩序と倦むことのない活動の中に保つみ手は、われわれのために十字架に釘づけされたみ手である。」（教育 143、144）

- a. わたしたちは、人の子として来られたことにあるキリストの使命の深い意義について、何を理解する必要がありますか（コロサイ人への手紙 1:19, 20; 2:9）。

「完全に救いの価値を悟るためには、それにかかった代価を理解する必要がある。キリストの苦しみについての限られた考えの結果、多くの人々が贖罪の偉大な働きに低い評価を下している。…この神のご計画には、墮落した人類に対するもっともすばらしい神の愛のあらわれが見られる。」（教会への証 2 巻 200）

「キリストの神性の栄光はこのお方が身に帯びられた人性によって一時覆われ、さえぎられたがこのお方が人となられた時に神であられることを止められた訳ではなかった。人性が神性にとって代わることなく、神性が人性にとって代わることもなかった。これが信心の奥義である。『人』と『神』という二つの表現はキリストにあって密接に分離できないほど一つであり、しかも別々の個性を持っていた。キリストは人となるために己を低くされたが、神格はなおもこのお方ご自身のものであった。忠実に、また真実に忠誠を尽くして立っている限り、このお方の神格は失われ得なかった。悲しみと苦しみと道徳的汚染に囲まれ、神の啓示を託された人々によって軽蔑され、拒絶されてもイエスはなおも天においてご自身を人の子ということがおできになった。地上でのお働きを終えられた時、このお方は再び神性の栄光を取られる用意ができていた。」（SDA バイブル・コメント [E・G・ホワイト・コメント] 5 巻 129）

「イエスは十字架を天からくる光のさす所に置かれた。そこが人の目に留まる場所だからである。十字架は神の御顔の輝きにまっすぐ続く線上にあるので、人が十字架を仰ぐとき、神と神が遣わされたイエス・キリストを見て知ることができる。神を仰ぐとき、わたしたちはその魂を死に至るまで注がれたお方を見るのである。十字架を仰ぐとき、その視界は神へと達し、神が罪を嫌悪されることが明瞭に理解される。しかし十字架上に神の罪への憎しみを見ると同時にわたしたちは罪人への死にもまさる神の愛を見るのである。」（同上 1133）

- b. キリストがご自分に完全に明け渡した人々のためになさる働きを、使徒はどのように要約していますか（コロサイ人への手紙 1:21, 22）。

「キリストは、ご自分の教会が変えられた体、天の光に輝き、インマヌエルの栄光を持つものになるように、備えをなしてこられた。すべてのクリスチャンが光と平安の霊的な雰囲気の中で囲まれるようにというのが、このお方のご目的である。自己をわきへおき、自分の心と生活に聖霊が働く余地を与え、完全に神へ献身した生涯を送る人の有用性には限りがない。」（教会への証 8 巻 19）

- a. キリストの許へ来る人々の救いは、どの重要な条件に基づいて、完全に保証されていますか（コリント人への第一の手紙 15:1, 2; コロサイ人への手紙 1:23）。

「わたしたちは変わる宗教を持てる可能性はない。福音は宣布され、個人的に受け入れられなければならない。全般的な同意だけでは不十分である。知的に心から真理を受け入れ、受けた人はそこに基づいて立ち、辛抱強く受けた知識を他の人々に伝達しなければならない。真理はあらゆる局面で実践されなければならない。命の言葉を堅く保ち、『もしあなたがたが、いたずらに信じないで、わたしの宣べ伝えたとおりの言葉を固く守っておれば、この福音によって救われるのである。』（コリント第一 15:2）。

人の生来の品性の特質によってあまりに希釈（きしゃく）されたためにその明確なキリストに似ている特徴を失うことによって、救う力を失ってしまった信仰を公言することがある。あなたは富んでいると言うかもしれないが、ついには自分がみじめな者、憐れむべき者、貧しく、目が見えず、裸であることを見出すようになる。キリストの教訓にならっていない突発的な信念や実践があるとき、あなたが持っているのはむなしい信仰である。あなたの心は、いつくしみ深さの宝を持っているか、悪である宝を持っているかのいずれかである。心の良い宝から、真理を受けた人は良いものを取り出す。信じると主張しながら、実践しない人は、傷つけ、失望させ、破壊する悪いものを出すのである。

わが兄弟よ、わたしはあなたに願う。理解力において幼子のようにふるまってはならない。神のみ言葉を実践している幼子のように行動しなさい。『なぜあなたはわたしを主人また主と呼びながら、わたしが話すことを行わないのか』とキリストは言われる。わたしたちの言葉、忍耐、柔和におけるわたしたちのふるまいの一貫性は、心のうちにあるキリストを表す。真剣に考えなさい、わが兄弟よ。そして、一步一步、勝利者になるために前進しなさい。」（原稿リッス9巻 213, 214）

- b. パウロは自分の召しを、どのように述べていますか（コロサイ人への手紙 1:24, 25; コリント人への第二の手紙 11:28-30）。

「使徒パウロの経験から勇気を得なさい。彼は多くの試練にあった。彼は倦むことを知らない働き人であって、たえずこかしこと旅をつづけた。ある時は宿るところもない土地を、またある時は暴風と雷雨の中海上を旅行した。当時、旅行は今のようないきやすかった。わたしたちの場合よりもはるかに困難であった。だがパウロは自分の仕事を何ものにも邪魔はさせなかった。」（SDA バイブル・コメント [E・G・ホワイト・コメント] 6巻 1106）

- a. どのようにキリスト者だけが、自分たちが分かち合うべき生きた福音を体現できるのでしょうか(コロサイ人への手紙 1:27-29)。

「人はキリストの力によって、罪深い習慣の鎖を断ち切る。彼らは利己心を捨て、不敬な者は敬虔になり、飲酒家は謹厳になり、放蕩者は純潔になる。サタンに似ていた人々が神のかたちに変わってくる。この変化はそれ自体が奇跡中の奇跡である。みことばによって起こる変化、それはみことばの最も深い奥義の一つである。われわれはそれを理解することができない。ただ、聖書に述べられているとおり、それが『あなたがたのうちにいますキリストであり、栄光の望みである』と信じていることができるだけである。」(患難から栄光へ下巻 169、170)

「きよめられた、献身的な人々が必要とされている。それは、試練や責任を避けない人々であり、勇敢で真実な人々であり、『栄光の望み』であられるキリストが心の中に形づくられている人々であり、きよい火に触れたくちびるで『御言を宣べ伝え』る人々である。このような働き人が欠乏しているために神のみわざは衰退し、致命的な誤りが猛毒のように、道徳を腐敗させ、人類の多くの希望を挫折させている。(同上 204)

「もしキリストがあなたのうちに『栄光の望み』となるならば、あなたは、他の人々を見張り、彼らのあやまちを暴露しようというような性向を持たなくなるだろう。非難したりとがめたりしようとしなくて、助け、祝福し、救うことがあなたの目的となるであろう。あやまちに陥っている人を取り扱うにあたって、あなたは、『もしか自分自身も誘惑に陥ることがありはしないかと、反省しなさい』という命令に気をつけるだろう(ガラテヤ 6:1)。あなたは、自分も幾度もあやまちにおちいり、ひとたび離れたら、正しい道を見出すことがどんなに困難であったかを思い出すだろう。あなたは、兄弟をいつそう暗い暗黒の中に押し入れることなく、あわれみに満ちた心をもって、彼にその危険を告げるであろう。

しばしばカルバリーの十字架を仰ぎ、自分の罪が救い主をそこにつけたことを思い起こす人は、決して自分の罪の度合を他人の罪と比較して計ろうとはしないであろう。彼は他の人を非難するためにさばきの座にのぼろうとはしないであろう。カルバリーの十字架のかげを歩む者には、あら捜しや自己賞揚の精神はあり得ない。」(祝福の山 159、160)

個人的な復習問題

金曜日 10月30日

1. パウロのコロサイ人に対していただいたどの願いを、わたしたちは今日、自分自身にあてはめるべきでしょうか。
2. 聖書は万物の創造主として、どのようにキリストを讃えていますか。
3. なぜキリストの性質を正確に理解することが重要不可欠なのか。
4. ある人がキリストを公言するにもかかわらず、どの怠慢が、このお方を信じる真の信仰を破壊しますか。
5. なぜ私たちのうちにいらっしゃるキリスト、栄光の希望が、今日これほど必要とされているのですか。

第一安息日献金 世界総会出版支部のために

ここ数年、11 月の最初の安息日には、このレッスンの中で、預言の霊からの引用を含む呼びかけを読んでもいただくのが習慣となっています。この呼びかけは、文書配布に関するもので、特にこの活動を拡大する必要性を強調しています。これはまさに適切で時宜を得たものです。

しかし今回は、このニーズをより深く理解していただくために、いくつか情報をお伝えしたいと思います。

数年前までは、英語の安息日聖書レッスンを 1 万部印刷していました（大量注文割引で入手可能でした）。現在では、その数は約 2,000 部にまで減少しており、残念ながら、1 部あたりの印刷コストが大幅に増加しています。この印刷量の減少は、無料のオンラインアプリケーションが便利になったことが原因です（もちろん、これは技術進歩の恩恵でもあります）。

世界的な潮流に倣い、総会は、毎週の安息日聖書レッスンを母国語で学習できるアプリを開発しました。現在 22 言語に対応しており、過去のレッスンへのリンクも英語で提供しています。このアプリは、Google Play ストアと Apple App Store で「Sabbath Bible Lessons」「Church Hymnal」「sdarm」のいずれかの名称で検索できます。また、このアプリでは、子供向けレッスンや「Week of Prayer」誌にもアクセスできます。

当ウェブサイト「sdarm.org」では、過去のレッスンにアクセスでき、現在 53 言語で安息日の聖書レッスンを提供しています。献身的なボランティア翻訳者の皆様の働きに感謝いたします。もちろん、オンラインでの活動も素晴らしいものであり、改めて、この技術に神に感謝いたします。

しかし、これが印刷物の世界的なニーズに取って代わるわけではないことも事実です。

総会出版部は、安息日聖書レッスン、リフォーメーション・ヘラルド、ユース・メッセンジャーといった雑誌の印刷版を、世界中の 30 以上の伝道部に無料で送付しています。つまり、これらの送付費用と印刷費用は、毎年 11 月に集められる献金によって賄われています。一見して、これらの献金だけではすべての費用を賄えないことがお分かりいただけるでしょう。

今週の安息日には、伝道文書のための献金を事前に計画してください。そうすることで、より多くの人々にメッセージを届けることができるよう、最善を尽くします。

世界総会出版支部より

救い主によって強められる

暗唱聖句：「このように、あなたがたは主キリスト・イエスを受け入れたのだから、彼にあって歩きなさい。また、彼に根ざし、彼にあって建てられ、そして教えられたように、信仰が確立されて、あふれるばかり感謝しなさい。」（コロサイ人への手紙 2:6, 7）

推奨文献： 教会への証 1 巻 290-302

「あなたには型である、キリスト・イエスがおられる。このお方の足跡をたどって歩みなさい。そうすればどのような地位に就くように召されても、それを務めるにふさわしい者となるであろう。」（クリスチャン教育の基礎 303）

1. 確かな源

日曜日 11 月 1 日

- a. これほど多くの情報が得られる時代において、使徒はわたしたちにどこに答えを求めるように命じていますか（コロサイ人への手紙 2:1-4）。

「わたしはわたしたちの民に次のように言うようにと指示されている。キリストに従おう。あらゆることにおいてキリストがわたしたちの型となるべきお方であることを忘れてはならない。キリストの教えの中に見出されない考えは安心して捨て去ることができる。わたしはわたしたちの牧師たちに彼らの足を永遠の真理という土台の上にしかりと置くようにと訴える。衝動を聖霊と呼んでそれに従うことに十分注意しなさい。この点において危険にある人々がいる。わたしは彼らに信仰において健全な者となり、自分の内にある希望について尋ねる人々にその理由を説明できるようにすることを求める。」（教会への証 8 巻 296）

「わたしたちは終りの時に近づいている。そして今、世の嗜好や慣習に合わせたのではなく、神のみ思いに合わせたいのである。聖書の述べていることを知り、それから、神がわたしたちに与えて下さった光に従って歩みたいのである。わたしたちの傾向、わたしたちの習慣やならわしは、優先されるべきではない。神のみ言葉がわたしたちの標準である。」（同上 5 巻 506）

- b. どの尊い資質のために、使徒は具体的にコロサイの信徒たちをほめましたか（コロサイ人への手紙 2:5）。

- a. わたしたちは、どのように自分のクリスチャンの歩みにおいて一歩ごとに成長すべきですか(コロサイ人への手紙 2:6, 7)。

「子供や青年たちに与え得る最高の教育は、将来の不死の命に最も密接な関係をもつ教育である。この種の教育が、信心深い両親から、献身した教師から、教会から与えられ、こうしてついに今度は青年たちが国内や国外の伝道地で熱心な伝道者になることができるためである。彼らは聖書の真理において熱心に指導されるべきである。こうして、教会において柱となり、真理のための勇士となり、信仰に根ざし、確立されるためである。彼らは自分の信じていることを知り、神聖な信任を裏切るようなものに決してなることがないような神聖な事柄における経験を持つべきである。青年たちは教訓と模範によって教育され、神のための代理人となり、憐れみの使命者となり、あらゆる良い言葉と働きのために準備ができ、こうして滅びようとしている人々にとって祝福となるべきである。」(クリスチャン教育の基礎 231)

- b. 今日世俗に思いが固定している状態を考えて、わたしたちはいつもどのような命にかかわる視点を念頭においているべきですか(コロサイ人への手紙 2:8; コリント人への第一の手紙 3:19)。

「世界におけるもっとも博学な人でも神のみ言葉によって啓発されなければ科学と啓示の問題を研究する場合に正しい理解をすることはできない。創造者とその御業は有限な人間の理解を超えている。人々は自然の現象を観察しただけでは、神の御業とその方法を説明できないので、聖書の歴史は信頼できないと結論する。多くの人々は宇宙の秩序の中に見られる主権者の意志と力の働きから神を除外しようとするに熱心なあまり、神の造られたものの中で最も高貴な人間の品位を落としている。哲学の推論は人間は単なる野蛮な状態から向上してきただけではなく、非常に下等な被造物の形態から次第に進化してきたとわたしたちに信じさせようとする。彼らは神の奇跡的な力を信じないために人間の威厳を破壊するのである。

神は知性を啓発し、芸術や科学の発見を通して世界に光の洪水を注がれた。しかしこれらのことを単に人間的な立場から眺める人々は必ず誤った結論に到達するであろう。誤謬や懐疑論や不信心のいばらは哲学や科学の衣で覆われ、変装されている。サタンは生ける神から引き離して、真理や宗教から魂を奪うためにこれらの巧妙な方法を考案してきた。」(SDA パイプ・コメント [E・G・ホワイト・コメント] 7 巻 906)

- a. キリストの性質について、何を悟らなければなりませんか（コロサイ人への手紙 2:9）。

「なんと驚くべき人間と神の結合であろう。・・・永遠の言葉が肉体とされた。神が人となられたのである。それは驚くべきへりくだりであった。」（SDA バイブル・コメント [E・G・ホワイト・コメント] 5 巻 1127）

「キリストは天の宮殿で持っておられた栄光をもってこの地上においでになることはできなかった。罪深い人間はそれを見るに耐えられなかったであろう。このお方は神性を人性の衣で覆われた。しかし神性は分離したのではなかった。神と人が結合した救い主は堕落した人類の先頭に立つために、幼児期から大人に至るまで、人間の経験を共にするために来られたのである。

キリストはご自身の神性を捨てて人性をおとりになったのではなく、神性を人性という衣で覆われたのである。

注意しなさい。キリストの人性について考える場合、ことのほか注意しなさい。罪の傾向を持った人としてこのお方を人々に示さないようにしなさい。このお方は第二のアダムである。第一のアダムは罪の汚れを帯びていない、純潔で罪のない者として創造され、神に似た者であった。彼には堕落する可能性があり、事実罪を犯して堕落した。罪のゆえに彼の子孫は生来の不従順の傾向をもって生まれてきた。しかしイエス・キリストは神のひとり子であられた。このお方は人性をその身に負われ、人としてあらゆる点で誘惑を受けられた。罪を犯して堕落する可能性はあったが、このお方のうちには一瞬たりとも悪への傾向がなかった。」（同上 1128）

- b. 何が、このお方の力強い、わたしたちを救うために満ち足りた力を明らかにしていますか（コロサイ人への手紙 2:10）。

「神のすべての戒めに対するご自分の従順によって、キリストは人のための贖いを果たされた。これはご自身から他の者へ出て行ってなされたのではなく、ご自身に人性を取り入れることによってなされたのである。こうしてキリストは人類にご自身から出る存在をお与えになった。人類をキリストのうちに入れ、堕落した人類を中に入れて神性と一つにすることが、贖いの働きである。キリストは人の性質を取られたが、それはご自分が御父と一つであられるように、人がご自分と一つになれるためであり、神がご自分のひとり子愛されるように、人を愛することがおできになるためであった。こうして人が神性にあずかる者となり、このお方のうちにあって完全になるためであった。…」

この結合は、ぶどうとその枝の結合によってあらわされている。有限な人間がキリストの人格に結合される。信仰を通して、人の性質がキリストの性質に同化される。わたしたちはキリストにあって、神と一つにされるのである。」（レクテッド・メッセージ 1 巻 250, 251）

- a. バプテスマによってあらわされている経験を述べなさい（ルカによる福音書 3:16; コロサイ人への手紙 2:11-13）。

「バプテスマは最も厳粛な世の放棄である。御父、御子、聖霊の三重の名によってバプテスマを受ける人々は、自分たちのクリスチャン生活のごく初めにあたり、公に自分たちがサタンの奉仕を捨て、王家の一員、天の王の子となったことを宣言するのである。彼らは次の命令に従う、『彼らの間から出て行き、彼らと分離せよ、…そして、汚れたものに触れてはならない。』」（教会への証 6 巻 91）

主は民を天にふさわしいものにしておられる。品性の欠点、頑固な意志、利己的な偶像、あらさがしの放縦、憎しみ、争いは、神の怒りを引き起こすのであるから、神の戒めを守る民から取り除かれなければならない。…神は彼らが地上にいる限り、譴責と警告をお送りになる。」（同上 4 巻 180）

- b. これらの十字架につけられた礼典について、何を理解しなければなりませんか（コロサイ人への手紙 2:14, 15）。

「幕屋が完成したあとで、主は、贖罪所の上の栄光の雲の中からモーセと交わり、ささげ物の制度に関する十分な指示と、聖所で続けるべき礼拝の形式とをお与えになった。こうして礼典律は、モーセに与えられたもので、モーセはそれを書物に書いた。しかし、シナイから語られた十誡の律法は、石の板の上に神ご自身がお書きになったもので、契約の箱の中に大切に保存された。

この礼典律のことを言っている聖句を用いて、この二つの制度を織りまぜて考え、道徳律は廃されたということを証明しようとする人々が多くいる。しかし、これは聖書の曲解である。この二つの制度には、実に明瞭な区別がある。儀式的制度は、キリストとキリストの犠牲、そしてキリストの祭司職を示す象徴によって成り立っている。犠牲と儀式的この礼典律は、世の罪を取り除く神の小羊であられるキリストの死という型の実体があらわれるまで、ヘブル人が行なうべきものであった。そのとき、すべての犠牲のささげ物は、終わることになっていた。キリストが、『取り除いて、十字架につけてしまわれた』のはこの律法であった（コロサイ 2:14）。しかし、十誡の律法に関して、詩篇記者は、『主よ、あなたのみ言葉は天においてとこしえに堅く定まり』と宣言している（詩篇 119:89）。」（人類のあけぼの上巻 432、433）

5. 識別力を発達させる

木曜日 11月5日

- a. 十戒の中の第七日目の安息に対して（出エジプト記 20:8-11）、どのような別の文脈の中で「安息日」という言葉がコロサイ人への手紙 2:16, 17 の中にありますか。違いを説明しなさい（レビ記 23:37-39; ヘブル人への手紙 10:1-4）。

「パウロは、罪のための大いなる犠牲キリストに、聴衆の心を向けようと努力した。彼は、犠牲が、きたるべき良いことの影であることを示し、その次に、これらすべての儀式の実体として、キリストを紹介したのである。実に、彼こそ、これらの儀式が、墮落した人類の生命と希望の唯一の根源として指し示したおかたであつた。古代の聖人たちは、キリストの血を信じる信仰によって救われた。彼らは、犠牲の動物の死の苦しみを見て、各時代の深淵のかなたに、世の罪を取り除く神の小羊を見たのである。」（患難から栄光へ下巻 111、112）

- b. コロサイ人への手紙 2:18-23 の中で、パウロが何を警告しているか、例を挙げなさい。

「心霊術の教師たちが、あなたを欺くために、心地よい魅惑的な方法でおとずれる。そしてもしあなたが彼らの作り話に耳を傾けるなら、義の敵によってだまされ、たしかにあなたの報いを失うことになる。ひとたび大欺瞞者の魅惑的な感化力があなたを打ち負かすと、あなたは毒され、その死に至らせる感化力がキリストが神の御子であるというあなたの信仰に混ぜ物を入れて滅ぼしてしまう。そしてあなたはこのお方の血の功績に頼ることをやめてしまう。この哲学によって欺かれたこれらの人々は、サタンの欺瞞を通して自分たちの報いについてだまされる。彼らは自分自身の功績に頼り、自発的な謙遜を働かせ、喜んで犠牲を払いさえし、自らを低め、この上なく無意味なものを信じるまでに自分の思いを明け渡し、自分たちの死んだ友人だと信じている人々を通して、もっとも不条理な考えを受け入れるのである。サタンは彼らの目を見えなくし、彼らの判断をゆがませて、彼らは悪を見抜かない。そして彼らは自分の死んだ友人であり、今や高い世界で天使となった者からとされる指示に従うのである。」（教会への証 1 巻 297, 298）

個人的な復習問題

金曜日 11月6日

1. 聖書からわたしが学ぶ研究を心に大切にすることが、なぜ賢明のですか。
2. 世俗の高等教育を追及するときに直面するいくつかの気づきにくい危険をあげなさい。
3. キリストの性質を知ることが、どのようにわたしたちをより良い民にしますか。
4. コロサイ人への手紙 2:14, 15 について、わたしは何を理解する必要がありますか。
5. コロサイ人への手紙 2:16, 17 の中でパウロが言及しているのは、どの種類の安息日ですか。

永遠を反映する

暗唱聖句：「あなたがたは上にあるものを思うべきであって、地上のものに心を引かれてはならない。」（コロサイ人への手紙 3:2）。

推奨文献： 教会への証 4 巻 92-94, 350-359; 青年への使命 94 - 112

「もしあなたの適性と技能が、地上の所有を得たり増やしたりするのに働かされてきたほどに、魂を救うことにおいて、また闇の中にいる人々のために真理を広めることにおいて働かされてきたならば、あなたは栄光の王国において、あなたの喜びの冠に多くの星をつけていたことであろうに。」（教会への証 4 巻 358）

1. 焦点を保つ

日曜日 11 月 8 日

a. キリストにゆだねたすべての人の焦点はどこにあるべきですか（コロサイ人への手紙 3:1）。

「わたしたちはキリスト共によみがえる。キリストがわたしたちの命である。このお方の憐れみと恵み深い愛を通して、わたしたちは選ばれ、養子にされ、許され、義とされるべきだと宣言される。そうであれば、主を大いなるものとしようではないか。」（セラテッド・メッセージ 2 巻 245）

「自己に相談すべきではない。誇り、自己愛、利己心、悪意、貪欲、世を愛すること、憎しみ、疑い、嫉妬、邪推は、征服され、永遠に犠牲にされなければならない。キリストが現れるとき、これらの悪が正されたり、またその時に、主の来臨にふさわしい道徳的適性が与えられることはない。この準備はみな、このお方が来られる前になされなければならない。それは思想の、研究の、また真剣な問いの主題であるべきである。わたしたちは救われるためには何をすべきであろうか。わたしたちが神のみ前に是認されるようにするためには、ふるまいはどうあるべきだろうか。」

つぶやき、非難するように、そしていられ、周囲にいる人々を傷つけ、またそうすることによって、自分自身の魂を傷つけることにふけるよう誘惑されるとき、ああ、深く、熱心で、真剣な問いが、あなたの魂からなされるようにしよう。わたしは神のみ座の前に傷なく立つだろうか。傷のない者だけが、そこに立つのである。だれひとり心が地上のごみで満たされている人が天に移されることはない。道徳的品性にあるすべての欠点は、まずいやされ、すべてのしみがキリストの清めの血で取り除かれなければならない。そして、すべての愛らしくない、また愛することのできない品性の特質は克服されなければならない。」（教会への証 1 巻 705）

- a. 自分の救いを確実にするために、わたしたちは一貫してどの慎重な選択をする必要がありますか (コロサイ人への手紙 3:2, 3; ヨハネの黙示録 3:11)。

「わたしたちの思いはわたしたちの思想の程度に留まる。もしわたしたちが地上のことを考え続けるならば、天来の感化を受けることに失敗するであろう。わたしたちは神の憐み、善、また愛を思いめぐらせることによって非常な益をこうむるのである。だが世的で一時的な事柄について考え込むことで、多大な損失を受ける。わたしたちは悲しみや心配や悩みがわたしたちの心を地に引き付けるのを許し、モグラ塚を山のように大きく見せるのである。・・・

一時的なことにわたしたちの全注意を寄せるべきではない。あるいはわたしたちの思考がまったく地上のこと、また地上的なことでいっぱいになるまで心を奪われてはならない。天の経路の中で考え、また霊的な洞察力によって見えない永遠の事柄についてよく考えることができるように、わたしたちは心を訓練し、しつけ、教育しなければならない。わたしたちが心の強さと霊の活力を得ることができるのは見えないお方を見ることによってである。」(SDA パイブル・コメント [E・G・ホワイト・コメント] 6 巻 1100)

- b. キリストに従うすべての者にどの高められた特権が提供されていますか。またどのように積極的にそれをつかむことができますか (コロサイ人への手紙 3:4; ヨハネの第一の手紙 3:2, 3)。

「わたしたちの生活はキリストと共に神のうちに隠されるべきである。そして『わたしたちがどうなるのか、まだ明らかではない。』『わたしたちのいのちなるキリストが現れる時には』、『わたしたちは、自分たちが彼に似るものとなることを知っている。そのまことの御姿を見るからである』。クリスチャン品性の王の子のような尊厳が太陽のようにかがやき出て、キリストのみ顔からの光線が、キリストがきよいように自らをきよめてきた人々の上に反射する。神の子になるという特権は、わたしたちの所有しているすべてを犠牲にしても、それが命そのものであってもさへ安い買い物である。

わが親愛なる兄弟よ、あなたは神ご自身の心にならう人になるために自分の顔を固定すべきである。他の人が厳密にクリスチャンの標準に従わずにあえて事をなしたり言ったりすることがあっても、あなたにとって言い訳となるべきではない。あなたは全地の裁き主の前に立たなければならない。他のだれでもなく、あなた自身が答えなければならないのである。わたしたちには個々人の責任があり、他の人の品性の欠点は、少しも自分の罪の言い訳にはならない。なぜなら、キリストはご自分の品性のうちに完全な型、欠点のない生活をわたしたちにお与えになったからである。…

誘惑がわたしたちの上に注がれるであろう。なぜなら、それらによって、地上における恩恵期間の間試されることになっているからである。これは神のテストであり、わたしたち自身の心のあらわれである。誘惑があることは罪ではない。しかし、罪は誘惑に屈したときに、入り込む。」(教会への証 4 巻 357, 358)

- a. キリストにすがりつくことによって、わたしたちは何を抑制する、すなわち、死に至らしめなければなりません。またどのようにそれが可能ですか（ペテロの第一の手紙 2:11; コロサイ人への手紙 3:5-8）。

「使徒はわたしたちに、魂に戦いをいどむ肉の欲を避けることを課している。すべてのゆがんだ食欲は、戦いをいどむ欲となる。身体的な力を損なう食欲にふけることは、魂の病気を生じさせる。使徒が述べている欲とは、第七条の戒めの違反に限られてはいない。そうではなく、身体的な活力を減じるような嗜好にふけるすべてのことが、戦いをいどむ欲なのである。…

あなたは自制を培わなければならない。あなたが若いうちに学ぶべきであった教訓を、今、修得すべきである。あなた自身を律し、自己を死に至らせ、あなたの意志をキリストの意志に服させなさい。」（教会への証 4 巻 215）

「クリスチャンがバプテスマの誓約をするとき、神の助けが約束される。御父と御子と御霊が彼のために働く準備をして待っておられる。神は、彼が勝利者になるため、彼が意のままに用いることのできる天の資源を備えてくださった。彼自身の力は小さいが、神は全能者であられ、しかも神が彼の助け主であられる。日ごとに彼は自分の欠乏を恵みのみ座に訴えるのである。信仰と信頼によって、また備えられた資源を利用することによって、彼は勝ち得て余りがあるのである。」—（わたしたちの高い召し 157）

- b. わたしたちの心が新しくされるとき、それはわたしたちの心にどのように影響しますか（コロサイ人への手紙 3:9, 10）。

「クリスチャンのすることはすべて、日光のように透明でなければならない。真実は神からのものである。欺瞞はその無数の形のどの一つをとっても、みなサタンからのものである。そしてだれでもいかなる点においても公正な真実から離れる者は、悪魔の手中に自分を売り渡しているのである。とはいうものの、真実そのものを語るのは容易なことではない。真実を知らなければ真実を語ることはできない。しかし先入感や偏見や不完全な知識や誤った判断などのために、処理しなければならない事がらの正しい理解がどんなにさまたげられていることだろう。わたしたちは、真理なるおかたによってたえず心が導かれないうえ、真実を語ることはできない。」（祝福の山 84、85）

「サタンは、人間のうちにある神のみかたちをいやしいものにすることに成功したと狂喜していた。その時イエスが、人間のうちに創造主のみかたちを回復するためにおいでになったのである。罪のために墮落した品性を新しく形づくることができるのはキリストよりほかにない。主は人間の意思を支配していた悪霊を追い出すためにおいでになった。主はわれわれを塵（ちり）の中から起し、けがれた品性をご自分のきよい品性に型どってつくり直し、ご自身の栄光をもってそれを美しいものとするためにおいでになった。」（各時代の希望上巻 28）

- a. 神が創造された人類全体のためのこのお方のメッセージを述べなさい（使徒行伝 17:24, 26, 27; コロサイ人への手紙 3:11）。

「〔キリスト〕は人類が不幸と罪のうちに沈み込んでいるのをご覧になった。このお方は男女が墮落し、低下していること、また彼らは最も忌むべき悪徳を心にいだいていることをご存知であつた。御使たちは、キリストが、彼らには希望がないと見える任務を引き受けておられることに驚いている。彼らは神がこれほどまでに罪深い人類に耐えられることに驚いている。彼らは愛の余地を認めることができなかった。しかし、『神はそのひとり子を賜わったほどに、この世を愛して下さった。それは御子を信じる者がひとりも滅びないで、永遠の命を得るためである』（ヨハネ 3:16）。

キリストはこの地上に憐れみと許しのメッセージをもって来られた。このお方はユダヤ人や異邦人も、黒人も白人も、自由人も奴隷も互いに共通した兄弟関係においてつながることができる、また神の御目に平等に認められる宗教の基礎を築かれた。救い主は人類一人ひとりに対して限りない愛を持っておられる。各自に、このお方は向上の余地をご覧になる。神聖な精力と希望をもって、このお方はご自分の命をお与えになった人々に挨拶をなさる。このお方の力のうちに、彼らは良いわざに富み、御霊の力に満たされた生活を送ることができる。」（教会への証 7 巻 225）

- b. わたしたちの言葉と行動において、典型的にみられるものより高いレベルのキリスト教を表すことができるいくつかの方法を挙げなさい（コロサイ人への手紙 3:12-14）。

「ある兄弟のうちに罪が明白なとき、それを他人に漏らしてはならない。かえって兄弟への愛をもって、同情に満ちた心をもって、憐れみをもって、彼に悪を告げ、そして問題を彼と主に委ねなさい。あなたは自分の義務を果たしたのである。あなたは宣告を下すべきではない。

兄弟を制御し、非難し、有罪宣告の下へおくことが、あまりにも軽い問題とされてきた。神のために熱心であるが、知識に基づいていないものがある。もし各自が自分の心を秩序のうちに整えているなら、兄弟たちが共に会うときに彼らの証は準備できていて、満ちみちた魂から出てくるはずである。そして真理を信じていないまわりの人々は心を動かされるはずである。神の御霊のあらわれが、彼らの心にあなたがたは神の子なのであると告げるであろう。わたしたちの互いの愛がすべての人に見えるであろう。そのとき、物言う力がある。そこには感化力がある。…

個人個人が働きにとりかかりなさい。熱心になって悔い改めなさい。そして知っている悪は全部正しなさい。それから、神があなたを受け入れて下さると信じなさい。つぶやきながら言うてはならない。そうではなく、神をみ言葉どおりに信じなさい。」（同上 1 巻 165）

- a. 今日の敵対的な世界の中で、キリストにある真実な生活の活気づけるような資質をいくつかあげなさい(コロサイ人への手紙 3:15-17)。

「自分の困難や悩みを忘れ、神のみ名の栄光のために生きる機会があることを神に賛美しよう。日ごとにもたらされる新しい祝福を、神の優しい保護の印として賛美の念を心にいだかなければならない。朝、目ざめたとき一夜の守りを神に感謝し、心の中にある神の平安を感謝し、朝に昼に夜にかおり高い香水のように感謝を天に上らせなさい。

人に気分を尋ねられた場合、同情を得ようとしてその人に何か悲しいことを言おうと思って考え出そうとしてはならない。自分の信仰の足りなさ、悲しみ、苦しみについて語るのをやめなさい。誘惑者はそういう言葉を聞くのを喜ぶ。陰鬱な話をするのはサタンをあがめていることになる。わたしたちを征服せんとするサタンの大きな力について長く語ったり、考えたりすべきではない。サタンの力について語っているうちに、その手中に陥ることがよくある。その代りに、ご自身のみ心にわたしたちの関心をすべて結びつけられる神の大きな力について語ろう。キリストの比類のない力や栄光について話しなさい。全天はわたしたちの救いに興味をもっている。千々万々の神の使が救いの世継ぎとなるべき者に奉仕するように命じられている。彼らは悪よりわたしたちを守り、わたしたちを滅ぼそうとする暗黒の権威を退けているのである。つねに感謝し、行く手に困難がみえるときにも感謝にあふれるのが当然ではないだろうか。」(ミニストリー・オブ・ヒーリング 230)

「勝利者の頭には、イエスご自身が右の手で、栄光の冠をかぶらせてくださる。すべての者のために、その人の『新しい名』と『主に聖なる者』ということばが刻まれた冠がある(黙示録 2:17)。すべての者の手には、勝利者のしゅろの枝と輝く立琴とが授けられる。そして、指揮する天使たちが合図の音をかき鳴らすと、すべての者の手はたくみに立琴をかなで、すばらしい音楽の美しい調べがわき起こる。」(各時代の大争闘下巻 425、426)

個人的な復習問題

金曜日 11月13日

1. あまりにもしばしば、わたしたちが地上の気分にはまり込んでいることを、何が示しますか。
2. どのようにによりよく自分の注意を、イエスにお会いする準備をすることに優先させることができますか。
3. なぜイエスはわたしが思想や行動において高い地を乗り通らせたいと望んでおられるのですか。
4. 真のクリスチャンにとって、なぜ人種的な区別に関する話し合いは無関係なのか。
5. どのように言葉や歌のうちに天のきよい純真さを発散することができますか。

家族とその向こう

暗唱聖句：「互に情深く、あわれみ深い者となり、神がキリストにあつてあなたがたをゆるして下さったように、あなたがたも互にゆるし合いなさい。」（エペソ人への手紙 4:32）

推奨文献： 教会への証 3 巻 527-540

「わたしたちは神のみたまを持たなければならない。さもなければ家庭に調和を保つことはできない。…一方が誤ちを犯しても他方がキリストのような忍耐を示し冷淡にはなれたりしない。」（アドベンチスト・ホーム 120）

1. 女性に対する訴え

日曜日 11 月 15 日

a. 妻はどのように自分の結婚において、美しい調和を促進することができますか（箴言 14:1; エペソ人への手紙 5:33（下句）；コロサイ人への手紙 3:18）。

「夫と妻の関係は、最も神聖で厳粛である。」（原稿リリース 6 巻 43）

「多くの夫は『妻よ、服従しなさい』というところでとまるが、この命令の最後をみると、『それが、主にある者にふさわしいことである』とある。

「神は妻が、神の栄えと神に対する恐れのをいつももっていることを求めておられる。ご自分の命という無限の価によって彼女を自分の子供として買いとられた主イエス・キリストにだけ全的服従をささげるべきである。神は妻に良心をお与えになった。彼女はその良心を犯せば罰を受ける。彼女はキリストに買われたものであるから、自分の個性を夫の個性の中に没入することはできない。何事も夫の命令通りにすればサタンのはなわめから買いもどされたからだと精神を傷つけることを知っていながら、盲目的な愛でそうしなければならないと想像することはまちがいである。妻にとって夫より上位に立つお方がおられる。それは彼女のあがない主であつて、夫に対する彼女の服従は、神が命じておられるように、『主にある者にふさわしくなされるべきである。』（アドベンチスト・ホーム 118）

「妻がキリストの精神を持っているなら、ことば使いに注意し、心を抑制し、従順である。しかしそのために自分を奴隷と感ずることはなく、夫の友であると感じる。」（同上 120）

- a. 神をおそれる女性は、どのようにふるまいにおける神の諸原則に価値を認めますか（ペテロの第一の手紙 3:1-6; ピリピ人への手紙 2:14）。

「今日私たちの家族や教会の中で大事にされている偶像があり、それは金の子牛がイスラエルに与えたのと同じ感化力を持っている。人々は自分自身を吟味するであろうか。羊飼いたちは神の忠実な衛兵として彼らの務めを果たしているであろうか。彼らは自分たちが抱えている偶像がなんであるかわかっているであろうか。普通の生活において自分たちは衣服の流行、会話、行状などにおいて世と区別され、分離されている民であることを考えているであろうか。彼らは大きな事物と同様に小さな事物の中にも彼らの偶像があることを知っているだろうか。彼らは非難されるとき、恥ずかしく思うが悔い改めない。」（SDA パイブル・コメント [E・G・ホイト・コメント] 17 巻 941）

「みせびらかしのけばけばしい衣服が、あまりにもしばしば着る人の心のうちにある欲を促進し、見る人々の心のうちに低俗な情欲を目覚めさせる。神は、品性の墮落がしばしば服における誇りや虚無にふけることに続くのをご覧になる。」（健康についての勧告 602）

「流行が、外の世界を支配する女神となってきた。そしてそれはしばしば巧妙に教会の中に入り込んできた。教会は、神のみ言葉を自分の標準とすべきである。そして親は知的にこの主題について考えるべきである。自分の子供たちが世俗の流行に従う傾向があることを認めるとき、彼らはアブラハムのように、断固として自分たちに従うよう彼らの家に命じるべきである。彼らを世と結合させる代わりに、神と結合させなさい。」（教会への証 5 巻 499）

「神の民を世の墮落させる感化力から守るために、また同様に、身体的および道徳的健康を促進するために、衣服改革がわたしたちの中に持ち込まなければならない。それは奴隷のくびきではなく、祝福を意図している。」（同上 4 巻 634）

- b. 神のない世界において、信心深い慣習をかがげ、道徳を守るために、何が教会を強めますか（テトスへの手紙 2:1-5; マタイによる福音書 5:8）。

「わが姉妹よ、あなたは悪の徴候さえ避けるべきである。墮落が充満しているこの目まぐるしい時代にあつて、しっかりと見張っていなければ安全ではない。貞操と慎ましきはまれである。高く、高尚な告白をしているイエス・キリストの従者であるあなたがたにお願いする。金で買うことのできない、尊い宝石である慎ましさを大事にしない。」（厳粛な訴え 151）

a. 結婚を誓う際に、男性は何を自覚すべきですか（コロサイ人への手紙 3:19）。

「夫たちが、女は家庭で意見や意志を持つてはならないと絶対的服従を主張するとき、彼らは妻を聖書に反する地位においている。彼らは聖書をこういうように解釈することによって結婚制度の計画にそむいている。彼らは独裁的に支配したいために聖書をこのように解釈するが、彼らにはそんな特権はない。そのつぎにこうしている。『夫たる者よ、妻を愛しなさい。つらくあたってはいけない。』夫は妻につらく当たる理由があるであろうか。妻に誤りがあり欠点がたくさんあったにしても、つらくあたることによってなおすことはできない。…

夫がキリストに服従しないのに家長としての支配権を持つということは神のご計画ではない。夫は教会との関係におけるキリストを代表することができるよう、彼自身キリストの支配の下にいないといけない。」（アドベンチスト・ホーム 118、119）

「多くの男性は、自分の妻を愛するが、あまりにもそれを表すのに利己的である。彼らは誤った尊厳と誇りを持ち、彼らの愛を言葉や行いに示そうとしない。妻の心がどれほど優しい感謝や愛情の言葉に飢えているかを決して知らない男性が多い。彼らは自分の愛する者たちを自分の視界から葬って、神のみ摂理が自分たちの連れ合いを奪ったとつぶやくが、彼らがこれらの連れ合いの内なる生活を見ることができたら、彼ら自身の一連のふるまいが、連れあいの早死の原因だったことを認めるであろう。」（教会への証 3 巻 527、528）

b. 何が妻への真の愛情を、人の中へ吹き込みますか（エペソ人への手紙 5:25、33（上旬）；ペテロの第一の手紙 3:7）。

「夫はエペソ人への手紙にしるされている象徴、すなわちキリストが教会と持つておられる関係によって何が意味されているかを理解し、その模範を研究しなければならない。夫は家族の中では救い主のような存在でなければならない。彼は高貴な、神に与えられた人となりを用意して立ち、妻と子供を向上させるためにたえず努力するであろうか。周囲にきよらかな、やさしいふんい気をかもし出すであろうか。彼は権威を強く主張すると同様の熱心さでイエスの愛を養い育て、それを家庭の不変の原則とするであろうか。

夫であり父親である人はすべて、キリストのことばを理解するためにそれを研究しなければならない。妻は夫に従うべきであるということだけを考える一方的な態度でなく、キリストの十字架の光に照らして、家族の中における自分の地位を研究しなければならない。」（アドベンチスト・ホーム 119、120）

- a. わたしたちの親に対する義務を説明しなさい (申命記 5:16; コロサイ人への手紙 3:20)。

「両親を敬わず、彼らに従わない子供たちは、新しくされた世界にはいることはできない。きよめられた新しい世界には、反逆的な、不従順な、感謝の心のないむすこや娘のための場所はない。」(アドベンチスト・ホーム 329)

「子供が自分の父親や母親から敬意や愛情を差し控えても良い時はない。親が生きているかぎり、彼らを尊び、敬うことは子どもの喜びとなるべきである。彼らは年老いた親の生活に快活さと日光をことごとく持ち込むべきである。…

子供が自分の親の快適さに奉仕してきたという思想は、生涯を通じて満足する思想であり、特に彼ら自身が同情と愛を必要としているときに喜びをもたらす。心が愛に満たされている人々は、自分の親が墓へ向かう道をなだらかにする特権を、計り知れない特権だとみなす。彼らは自分が愛する親の最後の日々に慰めと平和をもたらすのに役割を果たしたことを喜ぶのである。」(ビュー・アンド・ヘルト 1892 年 11 月 15 日)

- b. 親として、わたしたちは自分に対する自分自身の子供の義務を、どのようによりたやすいものにするよう命じられていますか (コロサイ人への手紙 3:21; エペソ人への手紙 4:32; 6:4)。

「青年は無知であり、敬虔がなく、聖書の愛とその神聖な真理への愛を生まれつき持っているわけではない。彼らのまわりに大変な努力をもってサタンの考案から彼らをかくまう防壁を築き上げないかぎり、彼らはサタンの誘惑的であり、彼の思い通りにとりこにされてしまう。子供たちは幼年時代に、罪のしみからきよめるために、神の律法の要求と自分の贖い主イエスを信じる信仰を教えらるべきである。…

子供たちは若い時にかたちづることができる。しかし、彼らの心がやわらかく真理の印象を受けやすい年月が過ぎると、彼らの道徳的な訓練のために捧げる時間はほとんどない。真理の貴重な教訓や義務は、日々彼らの心のうちに植えつけられなければならない。」(教会への証 5 巻 329)

「父親と母親が、どのように自分の子供たちが自分たちを模倣するかを悟るとき、彼らはすべての言葉と動きを注意深く見張るようになる。」(説教と講和 1 巻 325)

「その生活が真に神を反映し、神の約束と命令が子供の中に感謝と崇敬の念を起こさせるような両親は幸福である。また、そのやさしさと正義と忍耐とが、神の愛と正義と忍耐を子供たちに解明し、彼らに対する愛と信頼と服従を教えることによって、天の神に対する愛と信頼と服従を教える両親は幸福である。」(国と指導者 上巻 213)

a. わたしたちの雇用上の階級や社会的な地位に関係なく、どのような視点によって、わたしたちのうちに本物のクリスチャンとしての態度が鼓舞されますか（コロサイ人への手紙 3:22-4:1, 5）。

「最も慎ましい働きに科学がある。もし皆がそのように考えるなら、彼らは労働に高貴さを認めるであろう。どんな働きであろうと心と精神を注がねばならない。そうする時に快活さと能率が生まれる。…なさねばならない重要などんな働きにも榮譽がある。神の律法を行動の基準にしよう。そうすればそれがすべての労働を気高く聖なるものにしてくれる。すべての義務を忠実に遂行することは、その働きを気高いものにし、神がお受入れになる品性をつくる。

『心をつくし、精神をつくし、思いをつくし、力をつくして、主なるあなたの神を愛せよ。』神が望まれるのは心の奉仕、肉体的力の奉仕の中に表される愛である。

...

あなたは手近にある仕事に着手して改革しようと確固たる意志を持たないために、誤った道に固執することもできるし、あるいは最高の奉仕をすべく自己の力を啓発してどんな場所においても必要とされる人物となることができる。あなたは役立つすべてのことで感謝されるであろう。『すべてあなたの手のなしうる事は、力を尽くしてなせ。』『熱心でうむことなく、霊に燃え、主に仕え』なさい。』（SDA バイブル・コメント [E・G・ホワイト・コメント] 5 巻 1112)

「わたしたちは、一日、一時間、一瞬間がどんな結果を生じるかを知らないのであるから、天の父にわたしたちの道をまかせないで、一日を始めてはならない。天使たちは、わたしたちを保護するように、神の任命を受けているから、もし、わたしたちが、天使の守護のもとにあるならば、どんな危険なときにも、天使たちは、わたしたちの右にいますのである。わたしたちが、無意識のうちに、悪い感化を及ぼす危険がある場合、天使がわたしたちの側で、他のよい方法をとるように注意してくれて、言うべきことばを選び、わたしたちの行動を導いてくれる。こうして、わたしたちの感化は、無言で無意識のものであっても、他の人びとをキリストと天国に導く強い力となるのである。」（キリストの実物教訓 317）

個人的な復習問題

金曜日 11月20日

1. 神が妻のために導いておられる健康的なバランスを説明しなさい。
2. しばしばわなとなる気をそらす偶像的なものを挙げなさい。
3. 結婚における夫の高い召しを述べなさい。
4. 親に対するわたしの態度に、どのようによりよく神のみ旨を反映することができますか。
5. どのようにわたしの職場にいる人々に、神のみ旨をよりよく反映することができますか。

失われた者のために労する

暗唱聖句：「あなたがたもあかしし、神もあかしして下さるように、わたしたちはあなたがた信者の前で、信心深く、正しく、責められるところがないように、生活をしたのである。… 御国とその栄光とに召して下さった神のみこころにかなって歩くようにと」（テサロニケ人への第一の手紙 2:10, 12）。

推奨文献： 患難から栄光へ下巻 27 - 39

「パウロは教育者であった。彼は自分の声で福音を説き、自分の知的な労働において、その福音を自分の手をもって説いた。」（ビュー・アソド・ヘアト 1900 年 3 月 6 日）

1. 主人の下で働く献身した羊飼い 日曜日 11 月 22 日

- a. パウロのテサロニケ人への単純な前置きの挨拶は、どのように彼の群れに対する優しい関心の深さを表していますか（テサロニケ人への第一の手紙 1:1-4）。

「真の謙遜の根から、最も大切な心の偉大さ、すなわち、人をキリストのみ姿に一致させるように導くという偉大なことが芽を出す。この偉大さを持っているものは、忍耐と、神への信頼を得る。彼らの信仰は、不屈である。彼らの真の献身と信心は、自己をあらわさないようになる。彼らのくちびるから出る言葉は、キリストのような柔和と愛の表現にかたちづくられる。彼ら自身の弱さを知るとき、彼らは、主が彼らに与えてくださる助けを感謝し、正しく真実であることを行うことができるように、主の恵みを嘆願する。彼らの行いや態度、また精神によって、彼らがキリストの学校の生徒であるという身分証明書をたずさえることになるのである。」（彼を知るために 37）

- b. 使徒ペテロは、どのようにパウロと同様の訴えをしていますか（ペテロの第一の手紙 5:2, 3）。

「羊飼いの地位を占める者は、主の群れを注意深く見守らねばならない。それは、独裁的な監視ではなくて、励まし、強め、高めるよう導くものでなければならない。牧師の務めには、説教すること以上の意味がある。それは熱心な、個人的な働きである。」（患難から栄光へ下巻 225）

- a. 真理を広めるために、テサロニケにいる使徒や改心者の両方から、わたしたちはみな何を学ぶことができますか（テサロニケ人への第一の手紙 1:5-8）。

「聖霊を指導者として受け入れたいという願いをもっと示そう。」（医事伝道 307）

「聖霊の働きは、暗くなった理解力を啓発することであり、利己的で石のような心を溶かすことであり、反逆的な違反者を征服することであり、その人を世の墮落した感化力から救うことである。ご自分の弟子たちのためのキリストの祈りは、『真理によって彼らを聖別して下さい。あなたの御言は真理であります』であった。御霊の剣は、神の言葉であり、罪人の心をつらぬき、切り分ける。真理の理論がその神聖な感化力を話し手の魂が感じることなくくり返されるとき、聞く人には力がなく、誤謬として拒まれる。話し手に魂の損失の責任がある。わたしたちは自分たちの牧師が改心した人であり、謙遜で、柔和で、心の低い者であることを確かめなければならない。」（教会への証 4 巻 441）

「神はご自分の牧師たちに宣布すべき真理のメッセージをお与えになった。これを諸教会は受入れ、可能な限りの方法をつくして伝達し、最初の光線をとらえて、それらを放散しなければならない。」（同上 6 巻 425）

- b. どのように新しい信徒たちが世に対する証に変わりましたか（テサロニケ人への第一の手紙 5:9, 10; イザヤ書 56:6, 7）。

「キリストの再臨のメッセージには、生きた力が伴わなければならない。私たちは、主の再臨の祝福された希望に多くの人々が改心するのを見るまで休んではならない。使徒時代に、彼らの伝えたメッセージは真の働きをなし、多くの人々を偶像から生ける神に仕えるようにした。今日、行われるべき働きも、同様に真実であり、真理も同様に真理なのである。私たちは、主の再臨が近づいているから、はるかに熱心にメッセージを伝えなければならないだけである。この時代のメッセージは、積極的で、単純で、最も重要なものである。私たちは、それを信じる男女のように行動しなければならない。待ち、見張り、働き、祈り、世に警告を発する—これが私たちの働きである。…

全天は忙しく動き回り、神の報復の日、シオンの救われる日の準備に忙しい。遅延の時はほとんど終わった。長い間、旅人や寄留者が待ち望んだもつと良いふるさとは、もうそこにある。」（伝道上巻 297）

- a. テサロニケにおける成功のかぎをいくつかあげなさい（テサロニケ人への第一の手紙 2:1-7）。

「テサロニケの信者たちは本当の伝道者であった。彼らの心は、『きたるべき怒り』に対する恐れから彼らを救い出して下さった救い主への熱意に燃えた。キリストの恵みによって、彼らの生活におどろくべき変化が起こった。そして、主のみことばが彼らの口から語られると、力がそれに伴った。聞く者の心は宣べ伝えられた真理によって納得させられ、多くの魂が信者の群れに加えられた。

この第一の手紙の中で、パウロは、テサロニケ人の中で働いた彼のやりかたに言及した。彼は欺きやだましごとで改心者を導こうとしたのではないと言明した。」（患難から栄光へ上巻 277、278）

- b. テサロニケにおけるパウロの働きを観察するとき、どの資質が特に心を温めますか（テサロニケ人への第一の手紙 2:8-10）。

「パウロは、キリストの弟子になる前は、高い地位についていたので、生活のために手仕事をしなくてもよかった。しかし、後に、キリストの働きを推進するために財産を全部使い果たしたとき、彼は時々、生活費を得るために手仕事をしたのである。特に、動機が誤解されそうな所においては、そうだったのである。

パウロがみことばを宣べ伝えながら手仕事をして自給したことを、まず最初に読むのは、彼がテサロニケにいた時のことである。」（同下巻 28）

「異邦人への偉大な伝道者パウロは天幕作りの職を学んだ。天幕作りの部門には上級と下級があった。パウロは上級の部門を学び、また状況が求めれば普通の部門でも働いた。天幕作りは他の職業のようにそれほど速やかに報酬がもたらされることはなく、当時パウロが自らの必要を満たすことができたのは、ただ非常に厳格な節約によったのであった。…

健康的には弱かったが彼〔パウロ〕は日中キリストの働きに従事して、夜のほとんどをしばしば一晩中、自分自身と他の人々の必要を供給するために骨折って働いた。…

パウロは教育者であった。彼は自分の声で福音を宣べ伝え、その知的な労働においては自分の手でもってそれを宣べ'伝えた。彼は人間の教師たちの中で最も賢い教師によって教育されたが、それと同じ方法で他の者たちを教育した。パウロは自分の手で素早く巧みに仕事をするにあたり、仲間の者たちにキリストが幕屋を建てることに関してモーセにお与えになったことの詳細を伝えた。」（SDA バイブル・コメント [E・G・ホワイト・コメント] 6 巻 1063）

- a. パウロは、どの目的をもって群れを世話していましたか（テサロニケ人への第一の手紙 2:11-13）。

「真理の知識が与えられるのは、知力がすぐれているからではない。それは、純粋な目的をもって、熱心にすがっていく単純な信仰によるのである。心を低くして神の導きを求める者に、天使は近づく。真理の豊富な宝を開くために、聖霊が彼らに与えられるのである。」（キリストの実物教訓 37）

- b. パウロの時代における福音の宣布が直面した障害を述べなさい。また、歴史を通じて、近い将来を含め、これはどのようにこだましていますか（テサロニケ人への第一の手紙 2:14-18; テモテへの第二の手紙 3:12; マタイによる福音書 5:10-12）。

「争闘が新しい分野に及び、ふみにじられた神の律法に人々の心が向けられるとき、サタンは騒ぎ出す。使命に伴う力は、それに反抗する人々を怒らせるだけである。牧師たちは、その光が彼らの群れの上に輝かないようにと、ほとんど超人的な力で、それをささげろとする。彼らは、あらゆる手段に訴えて、これらの重大な問題に関する討論を圧迫しようとする。教会は、政権の強大な権力に訴える。そして、この働きにおいて、カトリックとプロテスタントは提携する。日曜休業運動が、ますます大胆に、ますます断固として推進されるにつれて、戒めを守る人々に対して法令が発布される。彼らは、罰金や投獄をもって脅かされる。そして、ある者は有力な地位によって、また他の者は報賞や便宜の提供によって、信仰を放棄するよう勧誘される。しかし彼らは、断固として、『われわれが誤っていることを神の言葉によって示してほしい』と答えるのである。これは、同様の状況の下でルターが行なったのと同じ訴えである。法廷に呼び出された者たちは、真理の力強い弁明をする。そして、それを聞く者の中には、神のすべての戒めを守るという立場をとるよう導かれる者が出てくる。こうして、他の方法ではこれらの真理を知ることができない幾千という人々の前に、光がもたらされるのである。

神の言葉に良心的に従うことは、反逆と見なされる。サタンに目をくらまされた親は、信仰を持つ子供を残酷無情に扱う。主人や女主人は、戒めを守るしもべを虐げる。愛情は、冷ややかになる。子供たちは勘当されて、家から追い出される。パウロの言葉は、文字通り成就する。…真理の擁護者たちが、日曜安息日を尊ぶことを拒むとき、投獄される者もあれば、追放される者もあり、また奴隷として扱われる者もいる。人間的に考えて、今そうしたことはありえないように思われる。しかし、神の霊の抑制が人々から除かれ、彼らが神の戒めを憎むサタンの支配下に陥るとき、異様な事態が展開するのである。神に対する恐れと愛が取り除かれるとき、人の心は、はなはだ残酷になりうるのである。」（各時代の大争闘下巻 377、378）

- a. パウロの心の願いがどれほど近くキリストの心の願いを反映していたかを見ると、なぜわたしたちは鼓舞されますか（テサロニケ人への第一の手紙 2:19, 20; イザヤ書 53:11）。

「パウロの一生の働きが、世界にどんな成果を与えたかを、だれが測り知ることができるであろうか。苦しみを和らげ、悲しみを慰め、悪を押え、生活を我欲と肉欲から高めて、これを永遠の生命の希望によって輝かしいものにするなどそうしたすべての恩恵の感化は、神の子の祝福をたずさえて、アジアからヨーロッパの海岸まで、人知れぬ旅をつづけて働いたパウロとその共労者たちに、どれだけ負うところが大きいであろう。

このように、祝福の感化を人々に及ぼすために神の器となることは、どんなにか価値のある人生であろう。そしてまた、このような人生の働きの成果を永遠の天国において目にみることは、どんなにか価値のあることであろう。」（教育 68）

「わたしたちは、救い主が創造された存在にとって、〔その教訓が〕どれほどの意味を持つのかを悟っていない。このお方は人類を愛しておられる。あなたはどれくらいと尋ねるであろうか。わたしはあなたにカルバリーを指し示す。」（両親、教師、生徒への勧告 284）

「われわれのまわりにいる人々の多くは、彼らの偏見が除かれ、われわれの現在の立場に対する証拠がみ言葉から示されさえするならば、喜んで現代の真理を受け入れるのである。使命者たちは、言いひらきをしなければならない者のように、魂を見張っていないなければならない。彼らの生活は、尊いがしばしば侮辱を受けるキリストの働きの重荷を背負って、苦勞と心痛の多い生活でなければならない。彼らは、世的な利益や慰安を捨てて、現代の真理の働きの推進と滅亡にひんした魂の救いに全力を尽くすことを第一の目的としなければならない。

彼らは、また豊かな報賞を受ける。彼らの喜びの冠には、彼らに助けられ、ついに救われた人々が星のように永遠に輝く。彼らは、人々が現代の真理を深く愛して、それに清められ、豊かにされて、小羊の血によって洗われ、神のみもとに贖われるというはかり知れない特権にあずかるために、現代の真理を純粋に美しく伝えることができた満足を永遠にわたって味わうのである。」（初代文集 134, 135）

個人的な復習問題

金曜日 11月27日

1. わたしたちはみな、真理を分かち合うことに関して使徒の口述から、何を学ぶことができますか。
2. なぜテサロニケにおける福音の働きは、特に顕著だったのですか。
3. なぜパウロは、福音の牧師でありながら、時に生活のために手仕事をしたのですか。
4. 迫害が激しくなる時、それにもかかわらず、どのような良い結果が生じますか。
5. キリストが、パウロが、そしてすべて魂を勝ち取った人々が、経験した喜びを述べなさい。

第一安息日献金 コンゴ共和国ブラザビルにある教会のために

ブラザビル市は、中央アフリカに位置するコンゴ共和国の首都にあります。ブラザビルは、首都キンシャサを擁するコンゴ民主共和国のすぐ西に位置しており、この 2 つの都市は世界で最も近接した 2 つの都市です。（コンゴが 2 つ存在する理由は、植民地時代に異なるヨーロッパ列強がこれらの隣接地域を植民地化し、コンゴ川にちなんで名付けたためです。）

コンゴ共和国の面積は 125,097 平方マイル (342,000 平方キロメートル) で、総人口は 6,484,437 人 (2025 年時点) です。首都ブラザビルは面積 101.9 平方マイル (263.9 平方キロメートル) で、人口は約 280 万人です。そのうち約 75% がキリスト教徒で、90% がカトリック、10% が福音派プロテスタント（主にキンバギスト）です。残りの人々は、アフリカのメシア信仰に基づく伝統的なアニミズムを信仰しているか、無神論者です。

話されている言語は、フランス語（公用語）、リンガラ語、キコンゴ語です。

SDARM のメッセージがブラザビルに初めて伝わったのは 2013 年のことでした。宣教師が 4 日間滞在し、2 組の若い夫婦に改革派のメッセージを伝えました。3 か月後、彼は再びブラザビルを訪れ、5 人で 27 日間で 41 人に福音を伝えました。翌年には、さらなる学びを提供するセミナーがこの地域に開催され、多くの信者が現在の真理を支持するようになりました。2021 年以降、コンゴの RAMA 宣教師学校の卒業生がブラザビル教会の聖書伝道者として奉仕しています。

ここでの課題の一つは、礼拝に適した場所を確保することでした。信徒たちは、所有者に放棄された古い建物で集会を開いており、数枚の長いビニールシートで覆う必要があります。雨季には、このような状況では定期的に集会を開くことが非常に困難になります。

しかしながら、ブラザビル教会は成長を続けています。毎週安息日には平均 30 人がここに集まり、主を礼拝しています。この時、この教会の兄弟姉妹たちは、世界中の兄弟姉妹であるあなた方に希望を託しています。あなた方の寛大なご支援によって、主の栄光にふさわしい、より適切な神殿を建てるための土地取得費用を賄うことができるからです。

ブラザビルの兄弟姉妹より

キリストに会う備えをする

暗唱聖句：「各自、気をつけて自分のからだを清く尊く保ち」（テサロニケ人への第一の手紙 4:4）

推奨文献： 教会への証 2 巻 480-489; セレクトド・メッセージ 2 巻 257-274

「聖化は漸進的な働きである。それは一時間や一日で得るものではない。またわたしたちの側で特別な努力もなく維持されるものでもない。」（教会への証 2 巻 472）

1. 満足を与えない豪華さ

日曜日 11 月 29 日

- a. 最高標準の芸術文化のただ中にありながら、パウロは、どのようにキリストのない生涯のむなしさを表しましたか（使徒行伝 17:16, 17, 32, 33; テサロニケ人への第一の手紙 3:1-4）。

「アテネという都市は異教の首都であった。ここでパウロが出会ったのは、ルステラのときのような無知で軽々しく信じやすい民衆ではなく、知性と教養で知られている人々であった。ここではいたるところで彼らの神々の像や、歴史や詩に出てくる、神格化された英雄の像が目についた…

パウロは、周囲の美しい、堂々たる光景を見わたし、町全体が偶像崇拜に陥っているのを見て、いたるところで侮辱されている神のために、嫉妬をかき立てられた。そして、知的文化が進んでいながら、真の神を知らないアテネの人々を、あわれむ気持ちになった。…

彼はアテネの壮麗さを見たとき、芸術や学問を愛する人々を支配する誘惑的な力を悟り、自分の前にある働きの重要性に深く心を動かされた。

真の神が礼拝されていないこの大都市で、パウロは孤独感におそわれ、共労者の同情と助けを切望した。人間的な友情に関するかぎり、彼は自分が全くひとりであると感じた。パウロはテサロニケ人への手紙の中でこの感情を『わたしたちだけがアテネに留まる』という言葉の中に表している（テサロニケ第一 3:1）。（患難から栄光へ上巻 251、252）

- a. テサロニケ人への手紙の中で、何がふたたびパウロの信徒に対する並々ならぬ愛と献身を表していますか（テサロニケ人への第一の手紙 3:5-10）。

「〔テモテとシラス〕は、福音宣伝者たちがテサロニケをはじめて訪問したとき真理を受け入れていた人々の、『信仰と寛容』の『よきおとずれ』を〔パウロ〕に携えてきた。パウロは、試練と逆境の真ただ中において、変わることなく神に忠実につかえている信者たちへ、優しい同情の心を向けた。」（患難から栄光へ上巻 276）

- b. 神のご自分の教会に対する栄光に満ちたご目的を述べなさい。またそれがどのようにわたしたちの生活の中で働くかを説明しなさい（テサロニケ人への第一の手紙 3:12, 13; 4:1-3（上句））。

「テサロニケの信者たちが神を恐れて歩むようにとの切なる願いから、使徒パウロは、日常の生活において神を敬う信仰を実践するようにと、彼らに求めた。」（同上 283）

「神は、ご自分の子らが、神に栄光を帰すためには、自分の愛情は、それを最も必要としている者に注がなければならないことを悟るようにと、望んでおられる。……同じ尊い信仰の人々への対応で、……彼らの地位が高かろうと低くかろうと、富んでいようと貧しかろうと、まなざしにも言葉にも行為にも利己心が表わされるべきではない。親切な言葉をわずかに人にだけ与え、他の人を冷たく無関心にあしらうのは愛ではなく利己心である。それは魂のためにもならず、神の栄光にもならない。わたしたちの愛は……特定の人にだけ向けられて、他の人をなおざりにすることがあつてはならない。壺を割りなさい。そうすれば香りが家に満ちる。…」

キリストが愛されたように愛するとは、いつでもどこでも親切な言葉と快活な表情によって、無我を表わすことである。それを与える者にとっては、何の費用もかからない。しかし、その行為は魂を包む香りを残していく。その効果は計り知れない。それは受ける者にとって祝福となるばかりでなく、与える者にも祝福となる。なぜなら愛は影響しあうからである。本物の愛は天に起源をもつ尊い属性であり、それが他の人に分配する割合に応じてその香りが増す。」（わたしたちの高い召し 231）

「聖潔は神への全的献身である。魂は神に明け渡される。意志、そして思いでさえもキリストの意志に服従する。イエスの愛が魂を満たし、他の人々の心を喜ばせるために清い新鮮な泉となって絶えず流れ出る。」（SDA バイブル・コメント [E・G・ホワイト・コメント] 6 巻 1076）

- a. パウロがテサロニケの人々を警告する必要を認めた一つの特別な罪、今日も驚くほどよく見られる罪をあげなさい (テサロニケ人への第一の手紙 4:3-5)。

「神の戒めを守ると公言するすべての人が、自分のからだを聖化と誉れのうちに保っていない。死すべき人間にかつてゆだねられた中で、最も厳粛なメッセージがこの民に委託されてきた。そして彼らはもしそれによって聖化されるならば、力強い感化力を持つことができる。彼らは神のすべての戒めを守り、永遠の真理という高められた土台の上に立っていると公言する。であるから、もし彼らが罪にふけるなら、もし彼らが不品行と姦淫を犯すなら、彼らの犯罪は、わたしが名前を挙げたような階級の人々、すなわち神の律法が自分たちに拘束力を持っていることを知らない人々の犯罪より、10 倍も大きいのである。特別な意味において、神の律法を守っていると公言する人々は、その規則を破ることによって、神を辱め、真理に不名誉を招いている。

まさにこの罪、不品行が昔のイスラエルの間に広がったことが、神のご不興の顕著な表れを彼らの上に招いたのである。このお方の裁きが彼らの忌むべき罪のすぐ後に続いた。幾千もの人々が倒れ、彼らの汚れた体が、荒野に残された。…

セブンスデー・アドベンチストは、世の他のどの民にまさって、心と会話において聖なるものとなり、敬神の模範となるべきである。」(教会への証 2 巻 450, 451)

「わいせつさがこの時代の特別な罪である。悪徳が今ほどその醜い頭をもたげたことはかつてなかった。民は無感覚になっているかのようである。そして徳と真の善を愛する者は、その大胆さ、力、また蔓延に、ほとんど失望しかかっている。あふれている悪は、単に不信者やあざける者たちに限定されているのではない。そうであれば良いのだが、そうではないのである。キリストの宗教を公言する多くの男女に罪がある。キリストの来臨を待っていると公言する人々のある者でさえ、サタン自身と同様に準備ができていない。彼らは自らをすべての汚れから清めていない。彼らは自分の欲にあまりにも長く仕えてきたために、彼らの思想には不純なことが自然であり、彼らの想像は墮落している。彼らの思いが純潔で聖なる事がらを考えるようにするのは、ナイアガラの流れを変えて、滝が流れ落ちないようにするのと同じように不可能である。」(同上 346)

- b. パウロが群れに与えた次の訓告は何でしたか (テサロニケ人への第一の手紙 4:6, 7)。

「主が復讐者として来られるとき、このおかたはまたその純潔さのうちに信仰を守り、自らを世の汚れに染まずに保ったすべての人々を守るお方として来られる。」(教会への証 5 巻 210)

- a. パウロには群れのためにどの励ましがありましたか（テサロニケ人への第一の手紙 4:8-10）。

「真の改心を示す最も強力な証拠の一つは、神と人々に対する愛である。あがない主としてイエスを受け入れている人々は、同じ尊い信仰を持っている他の人々に対して、深い、誠実な愛を持っている。テサロニケの信者たちもそうであった。」（患難から栄光へ上巻 284）

- b. どの生活の教訓がすべての人にとって助けとなりますか（テサロニケ人への第一の手紙 4:11, 12; 箴言 13:4）。

「青年よ、主の御霊によって命じられる場所へ行きなさい。あなたの手をもって働き、自給者になることができるように、そして機会があるときに警告のメッセージを宣布できるようにしなさい。」（医事伝道 321）

- c. テサロニケにおけるどの重要な聖書の教理が、闇と混乱の幾世紀の後に再び重要なものとなりましたか（テサロニケ人への第一の手紙 4:13-15; 詩篇 6:5; 13:3）。

「テサロニケ人たちは、キリストは生きている信仰者を変えて、ご自身のもとに連れていくために来られるという考えを、しっかり持っていた。彼らは友人たちが死んで、主の来られる時に受けようとしている祝福を失うことのないようにと、友人たちの命を注意深く見守っていた。しかし、愛する人々が次々に彼らから取り去られた。そしてテサロニケ人たちは、亡くなった者たちの顔を、これが見納めと苦しみ嘆きながら見つめ、彼らと将来生きて会えるなどという希望は到底持てない気持ちになっていた。

パウロの手紙が開かれて読まれたとき、死の正しい状態を明らかにした言葉によって、大きなよろこびと慰めが教会に与えられた。パウロは、キリストが来られるとき、イエスにあって眠りにについている者たちより先に、生きている者たちが主に会いに行くのではないことを教えた。」（患難から栄光へ上巻 279、280）

「重大な誤りが…キリスト教信仰のなかにもちこまれた。それらのうちで特に目だつものは、人間は生来不死であって、死んでも意識があるという信仰であった。この教義を基礎にして、ローマ教会は、諸聖人に祈りをささげることや、聖母マリヤを崇拜することを確立した。また早くから法王教の中に織りこまれていたところの、最後まで悔い改めない者は永遠の責苦に会うという異端的な教えも、ここから起こったのである。」（各時代の犬争闘上巻 55）

- a. まもなくキリストが栄光の雲のうちに再臨なさるときに起ころうとしている荘厳な光景を述べなさい（テサロニケ人への第一の手紙 4:16-18; ヨハネの黙示録 20:4-6）。

「全天には、天使がいなくなる。[イエス]がオリブ山から昇天されたときに、ガリラヤの人々が天を仰いだように、彼を待ち望む聖徒たちは天を仰ぐのである。その時、聖なる人々、すなわち、柔和な模範に完全に従った人々だけが、彼を仰ぎ見て、『見よ、これはわれわれの神である。わたしたちは彼を待ち望んだ。彼はわたしたちを救われる』と、熱狂的な喜びに満たされて叫ぶのである。そして、彼らは、『終りのラッパの響きと共に、またたく間に、一瞬にして変えられる』。そのラッパによって、眠っている聖徒たちは呼び醒まされ、土の床から輝かしい不死をまもって出て来て、『勝利した！死と墓とに勝利した！』と叫ぶのである。」（初代文集 208、209）

「キリストの霊の命を与える力が、死すべき体のうちに宿り、すべての信徒をイエス・キリストに結びつける。イエスを信じるすべての人々はこのお方の心に神聖なものである。なぜなら、彼らの命はキリストと共に神のうちに隠されているからである。命の与え主から命令が与えられる。『ちに伏す者よ、さめて喜びうたえ。あなたの露は草の露であって、地は死者を出すからである』（イザヤ 26:19 欽定訳）。

命の与え主は、第一の復活においてご自分が買われた所有をまず呼び出される。そしてラッパの時まで、最後のラッパが鳴り、はなはだしい大軍が永遠の勝利へと出てくる時まで、すべての眠っている聖徒は、安全に守られ、尊い宝石として守られるのである。彼らは神に名をもって知られている。生きている間に彼らのうちに宿っていた救い主の力によって、また彼らが神性にあずかる者であったために、彼らは死者から引き出される。…

復活の朝は、なんと栄光に満ちた朝となることであろう！キリストが信じる人々にあがめられるために来られるとき、なんとすばらしい光景が開かれることであろう！キリストのへりくだりと苦難においてこのお方にあずかった人々は皆、その栄光のうちにあってこのお方にあずかる者となる。キリストの死者からの復活によって、イエスのうちに眠りについたすべての信じる聖徒は、勝利のうちにその牢獄から出てくる。よみがえった生徒は、次のように叫ぶ、『死よ、おまえの勝利は、どこにあるのか。死よおまえのとげは、どこにあるのか』（コリント第一 15:55）。（セレクトッド・メッセージ 2 巻 271, 272）

個人的な復習問題

金曜日 12月4日

1. アテネのように、どの場所が今日、地上の豪華さの限界を表していますか。
2. 日々の生活の中で、なぜ惜しめない愛がそれほど重要なのですか。
3. 今日のみだらな時代に、どの現実が教えられる必要がありますか。
4. なぜ死者の真の状態を理解することが重要なのですか。
5. キリストの再臨に起こる工程を挙げなさい。

光のうちに生きる

暗唱聖句：「しかし兄弟たちよ。あなたがたは暗やみの中にいないのだから、その日が、盗人のようにあなたがたを不意に襲うことはないであろう。」（テサロニケ人への第一の手紙 5:4）

推奨文献： 教会への証 4 巻 309-313; 同上 5 巻 711-718

「義の太陽が、闇を追い払うために、そして世における光として輝くべき人々のために重要不可欠な準備へ神の民の注意を向けるために輝いてきた。」（教会への証 6 巻 166）

1. 祈りにおいて油断なく

日曜日 12月6日

a. わたしたちの目の前で預言が展開されているのを見ながら、いつも何を心にとめていなければなりませんか（テサロニケ人への第一の手紙 5:1, 2; 伝道の書 8:5）。

「わたしたちは神にもっと近いなければならない。自己はもっと少なく、イエス・キリストをもっと多く、そしてこのお方の恵みがわたしたちの日々の生活に持ち込まれなければならない。わたしたちはこの世の歴史の重要な時に生きている。万物の終わりが近い。時の砂時計は速やかになくなりつつある。まもなく天において次のように言われる。『事はすでに成った』。『不義な者はさらに不義を行い、汚れた者はさらに汚れたことを行い、義なる者はさらに義を行い、聖なる者はさらに聖なることを行うままにさせよ』（黙示録 22:11）。

わたしたちの証が研ぎ澄まされるようにしよう。もっと固く神をつかもう。わたしは朝、一時、二時、三時に、主が民の心に働いて下さるようにと祈らずにはいられない。わたしは全天が地上で行われつつある働きに関心を持っていることを思う。奉仕する御使たちは、御座のまわりで、熱心な生きた信仰のうちに捧げられる一つ一つの祈りに答えて、イエス・キリストの命令に直ちに従うために待機している。」（エルクテド・メッセージ 2 巻 376, 377）

「すべての者が肉の安全というゆりかごの中で眠るためにあやされるのではないことを、神に感謝する。時のしるしを見分ける忠実な者がいるであろう。現代の真理を公言する大多数が自分の行いによって、自分の信仰を否定する一方で、何人かは終わりまで耐え忍ぶ者がいるであろう。」（教会への証 5 巻 10）

- a. 終わりの時代に生きるとき、どの現実と直面しますか（イザヤ書 13:9; ルカによる福音書 17:28-30）。

「最終時代に、宗教界に見られる腐敗と背信とは、『地の王たちを支配する大いなる都』バビロンという幻によって、預言者ヨハネに示された（黙示録 17:18）。滅亡に先だって、『わたしの民よ。彼女から離れ去って、その罪にあずからないようにし、その災害に巻き込まれないようにせよ』という招声为天から発せられる（同 18:4）。ノアやロトの時代と同様に、罪と罪人とは、はっきり分離しなければならない。神と世との妥協はあり得ない。地上の宝を得るために引き返すことはできない。『あなたがたは、神と富とに兼ね仕えることはできない』（マタイ 6:24）。

シデムの谷の住民のように、人々は、繁栄と平和を夢みている。神のみ使いは、『のがれて、自分の命を救いなさい』と警告する。しかし、別の声は『あわてることはない。心配することはない』という。天は、すみやかな滅亡が犯罪者に臨むと宣言しているのに、人々は『平和だ、無事だ』と叫ぶ。」（人類のあけぼの上巻 175）

- b. 影響力の大きい人々からの地上の栄光の花のような約束に代わりに、わたしたちはみな何に注意を払わなければなりませんか（テサロニケ人への第一の手紙 5:3）。

「弁護士、商売人、農夫、貿易業者、また講壇からの牧師たちでさえ、『平和だ、無事だ』と叫んでいるが、そのときに破滅がすみやかに彼らに臨むのである。

まもなく人の子が天の雲のうちに来られることを信じるからといって、真のクリスチャンは、通常の日常の働きをなおざりにしたり、不注意になったりはしない。まもなくキリストが来られることを待っている人々は、仕事において怠惰ではなく、勤勉である。彼らの働きは不注意になされたり、不正直になされたりすることなく、かえって忠実に、迅速に、徹底的になされるのである。この地上の事がらに無頓着で不注意なことが自分たちの霊性と世からの分離の証拠であるとうめばれている人々は、大変な欺瞞の下にいる。彼らの正直さ、忠実さ、また尊厳は、地上の事がらにおいて試され、立証される。もし彼らが小事に忠実であるなら、大事にも忠実なのである。…

ここで多くの人々はテストに失敗する。彼らは地上の関心事の管理において自分たちの真の品性を発達させる。彼らは、自分たちの同胞仲間を扱う際に、不忠実、たくらみ、不正直を表す。彼らは自分たちが将来の不死の命をつかむかは、自分たちがこの地上における関心事に自らどうふるまうかにかかっていること、また厳密な正直さが、正しい品性を形成するのに不可欠であることを考えない。」（教会への証 4 巻 309, 310）

- a. 神の民はこの地上においてどのように区別されるべきですか（テサロニケ人への第一の手紙 5:4-6）。

「神は、言葉とふるまいにおいて、地上の魅力や世俗の所有物は、天の嗣業を失うことに比べたら、十分な価値を持っていないことを世に宣言する民を持っておられる。真に光の子であり、昼の子である人々は、会話において、衣服において、ふるまいにおいて、虚栄や軽率さがなく、謹厳で、よく瞑想し、絶えず魂を贖い主へ惹きつける感化力を及ぼしている。十字架から反射しているキリストの愛が、罪人のために嘆願し、その人を無限の愛のひもでわたしたちの救い主のうちに見いだされる平安と幸福へ引き寄せている。神はご自分に従うすべての人に、自分のふるまい、衣服、会話、また人生のすべての探求において、真の信心の力は、この世の生涯のためにも来たるべき生涯のためにも益になること、またこれだけが受ける人の魂を満ち足らせることができるという生きた証を間違いない言葉で担うように責任を課しておられる。」（教会への証 4 巻 580, 581）

『目をさまして祈りなさい』という警告の中で、イエスは、唯一の安全な道を示唆してこられた。見張ることが必要である。わたしたち自身の心が偽るものである。わたしたちは人類の弱さともろさに囲まれている。そしてサタンは滅ぼそうとしている。わたしたちは警戒を怠るかもしれないが、わたしたちの敵は決して怠けることはない。彼が倦むことなく油断しないことを知っているのだから、他の人のように眠っていないで、『目をさまして慎んでいよう』。世の精神と感化力に直面しなければならないが、それらが思いと心をとらえるのを許してはならない。

活発な事業家が、世と接触するように導かれるとき、試練、困惑、不安な心配ごとを持つようになる。彼は世俗的な考えや計画が導こうとする傾向があり、献身的精神を維持するためには、努力と思いや魂の規律が要求されることを見出すようになる。しかし、神の恵みが彼の求めを待っていて、彼の大きな必要こそが、神に勝つ力強い論拠なのである。」（同上 5 巻 409, 410）

- b. わたしたちはなぜ望みを持ち、またそれに従って行動することができるのですか（テサロニケ人への第一の手紙 5:7-11）。

「キリストの再臨に先立って起こるしるしに無関心でいることは罪であると、パウロは教えている。この怠慢の罪を犯している人々を、彼は夜の者、やみの者と呼んでいる。…

油断のないクリスチャンは、活動しているクリスチャンである。彼は、福音進展のために自分の力でできることは、何でも熱心にやろうとしている。」（患難から栄光へ上巻 282）

- a. テサロニケにおいて一つ必要とされた注意喚起を挙げなさい（テサロニケ人への第一の手紙 5:12, 13）。

「テサロニケの信者たちは、狂信的な考えや教理を持ち込んでくる人々に非常に悩まされた。ある者は『怠惰な生活を送り、働かないで、ただいたずらに動きまわって』いた。教会は正しく組織されており、役員は牧師や執事として奉仕するよう任命されていた。しかし中には身勝手に、衝動的で、教会の権威ある地位にいる人々に従うことを拒む者たちがいた。彼らは個人的に判断する権利ばかりでなく、彼らの見解を公に教会に主張する権利を要求した。このためにパウロは、教会の中で権威ある地位に任命されている人々を尊敬し、彼らの意見に聞き従うよう、テサロニケの人々に注意を与えたのである。」（患難から栄光へ上巻 283）

- b. すべての人は、どの全般的な訓告を必要としていますか（テサロニケ人への第一の手紙 5:14, 15）。

「わたしたちの中の一人が死によって取り去られるとき、彼が受けた扱いについてわたしたちの記憶は何だろうか。それらは思いかえすときに、記憶の壁にあって、心地よい光景だろうか。それらは語られた親切な言葉、正しい時に与えられた同情の記憶だろうか。彼の兄弟たちは、無分別なおせっかい者の邪推を退けてきただろうか。靈感を受けた次の指示に忠実であっただろうか。『小心な者を励まし、弱い者を助け…なさい』。…

教会において交わりのあった人が死ぬとき、わたしたちはその人の天の帳簿が定まること、そして裁きの時にその記録と直面しなければならないことを知っている。その人に対してとられた一連の行動に関して、その人の兄弟たちは何を省みるであろうか。その人に及ぼした彼らの感化力はどのようなものだっただろうか。今やどれほどはっきり一つ一つの手厳しい言葉、無分別な行動が、思い起こされることであろう！もし彼らがもう一度試されるなら、なんと違ったふるまいをすることであろう！」（教会への証 5 巻 489）

「あなたが押しやられ、誤解され、誤り伝えられ、誤って表されるようになればなるほど、あなたは、自分が主人のための働きをしているという証拠を得るようになる。そして、あなたはますます近く自分の救い主にすがりつかなければならない。あなたのすべての困難の中で、静かに心乱されずに忍耐強く寛容でありなさい。悪をもって悪に報いることなく、善をもって悪に報いなさい。はしごの頂上を見なさい。神がその上におられる。天に向かって上りつつあるすべての魂の上に、このお方の栄光が輝いている。イエスがこのはしごであられる。このお方によって上りなさい。このお方にすがりつきなさい。そうすると、やがてあなたは、はしごから足を外して、とこしえの御国へと入るようになる。」（同上 8 巻 130）

- a. 試練のうちにいるとき、何を思い出すべきですか（テサロニケ人への第一の手紙 5:16-18）。

「あなたは、試練に会うであろうが、自分の尊厳を堅くつかんでいなさい。高尚な精神以外のものを、決して表してはならない。全天が戦いを見守っている。サタンも見張っており、あなたの警戒が緩んだときに捕らえようと、あなたが衝動的に行動するのを見ようと熱望している。それによって彼があなたに対して有利になる機会をとらえるためである。雄々しく主の戦いをたたかいなさい。キリストがあなたの立場におられたらなされるはずのことだけをしなさい。あなたの信仰と実践に矛盾がないようにしなさい。絶えず起こってくるいらだたしい思いに興奮することを自らに許してはならない。平静を保ち、イエスのことを考え、このお方を喜ばせることができることをしなさい。キリストと聖霊の恵みが、あなたのための神の賜物である。それはあなたが内なる人におけるすべての力をもって強められるためである。」（教会への証 8 巻 132）

「もし神の愛に満ちた親切が、もっと感謝と賛美を呼び起こすならば、わたしたちは祈りにおいてはるかにもっと力を得ていることであろう。わたしたちはますます神の愛に富み、またますますこのお方を賛美するものを授けられるであろう。神が自分の祈りを聞いて下さらないとつぶやくあなたは、自分の今の体制を変えて、自分の嘆願に賛美を混ぜなさい。あなたがこのお方のいつくしみ深さとあわれみを考えるとき、あなたはこのお方があなたの欠乏を考えて下さるのを見出すようになる。」（同上 5 巻 317）

- b. 勝利に満ちた考え方の習慣をいくつかあげなさい（テサロニケ人への第一の手紙 5:19-21）。

「人は、御霊を消す力を持っている。選択の力は、彼らに任されている。彼らは行動の自由を許されている。彼らはわたしたちの贖い主の御名と恵みを通して、従順になることもできるし、不従順になって、その結果を自覚することもできる。…

神の御霊は絶えず説得しておられる。そして魂は真理の側につくか、反対につくかを決定しているのである。」（福音宣伝者 174）

個人的な復習問題

金曜日 12月11日

1. わたしはどのようにもっと油断なく祈る習慣を発達させることができますか。またなぜそれが重要なのですか。
2. わたしたちが「平和だ無事だ」という主張を聞くと、何を思い出すべきですか。
3. 光と昼の子ら、また闇と夜の子らの区別は何ですか。
4. 悩ませているが、感謝されるべきかもしれない人を、わたしはだれか知っているでしょうか。
5. 神へのわたしたちの嘆願に伴うべきものは何ですか。

真に区別された民

暗唱聖句：「このためにまた、わたしたちは、わたしたちの神があなたがたを召しにかなう者となし、善に対するあらゆる願いと信仰の働きとを力強く満たして下さるようにと、あなたがたのために絶えず祈っている。」（テサロニケ人への第二の手紙 1:11）。

推奨文献： 教会への証 2 巻 296-307; 同上 5 巻 591-603

「主はご自分に従う人々が、互いを扱う際に大いに心遣いを働かせるように願っておられる。彼らは引き上げ、回復し、いやさなければならない。しかし、教会内に適切な規律をなおざりにすることがあってはならない。教会員は、自らを学校において、自分たちの高い召しにふさわしい品性をいかに形成するかを学んでいる生徒だと見なすべきである。」（教会への証 7 巻 264）

1. 内と外の純潔

日曜日 12 月 13 日

a. 純潔を求める神の召しの深さを、何が示していますか（テサロニケ人への第一の手紙 5:22）。

「少しでも悪く見えることは道路上であれ、家庭であれ、他人にしてはならない。」（ミニストリー・オブ・ヒーリング 476）

「あなたのふるまいが、交わるすべての魂に、純潔と聖なる雰囲気あなたがたを囲んでいるという印象を残すようなものとしなさい。一言のむなしい言葉、一つの軽率な笑いが、魂の均衡を悪へ傾けてしまうかもしれない。つねに神とのつながりを持っていない結果は恐るべきものである。

あらゆる悪を避けなさい。よくある罪は、どれほど重要でないと考えられていても、あなたの道徳的な感覚を損ない、御霊の内なる印象を消してしまう。思想の品性は、魂に跡を残し、あらゆる低い会話は思いを汚す。あらゆる悪はそれを犯す人々を損なう。神は、悔い改めた罪人を許すことがおできになるし、許して下さるが、許されても、魂は損なわれているのである。跡を残されていない思いには可能な高尚な思想の力が破壊されている。ずっとあらゆる時を通じて、魂には傷が残る。であるから、愛によって働き心を清める信仰を求めようではないか。こうして、わたしたちが世に対してキリストの品性を表すことができるためである。」（クリスチャン教育の基礎 195）

- a. わたしたちの日ごとの存在のための神のご計画と、どのようにそれが可能になるかを述べなさい (テサロニケ人への第一の手紙 5:23, 24)。

「キリスト者は、自分たちのからだを、『神に喜ばれる、生きた、聖なる供え物として』ささげるように命じられている。そうするためには、彼らのすべての能力を、なしうる最上の状態に保たなければならない。肉体的、または知的能力を弱める習慣はすべて、人間を創造主に奉仕するのにふさわしくない者にする。神は、われわれが、自分たちのささげうる最上のものより劣るものをささげるとき、喜ばれるであろうか。キリストは、『心をつくし……て、主なるあなたの神を愛せよ』と言われた。心をつくして神を愛する者は、その生涯をもって最上の奉仕をすることを望み、神のみこころを行なう能力を増進させる法則に、心身のすべての能力を調和させようと常に努力する。彼らは、食欲や情欲をほしいままにして、彼らの天の父にささげる供え物を弱めたり汚したりしないのである。」(各時代の大争闘下巻 202, 203)

「聖書は、体、魂、そして霊について神への聖化を求めるようにわたしたちに教えている。この働きにおいて、わたしたちは神と共に働く共労者とならなければならない。人のうちに神の道徳的なかたちを回復し、身体的、精神的、道徳的能力を向上させるために多くのことができる。神の律法に従い、汚すものは何一つ体内に入れないならば、身体的組織に大きな変化をもたらすことができる。そして肉の完全はわがものとして求めることはできないが、魂のクリスチャンの完全さは持つことができるのである。わたしたちのために払われた犠牲を通して、罪は完全に許されることができる。わたしたちは、人に何ができるかに依存しているのではない。神がキリストを通して人のために何がおできになるかに依存しているのである。わたしたちが自らを完全に神に明け渡し、そして完全に信じる時、キリストの血がすべての罪から清める。良心は有罪宣告から解放される。このお方の血を信じる信仰を通して、すべての人はキリスト・イエスにあつて完全にさせていただくことができる。わたしたちが不可能を扱っているのではないことを、神に感謝する。」(レクテッド・メッセージ 2 巻 32)

- b. どの資質が信徒たちのあいだの交わりの本物の深さを表しますか (テサロニケ人への第一の手紙 5:26-28; ヨハネの第一の手紙 1:7)。

「使徒パウロが、イエス・キリストの福音のなかで述べているきよいあいさつは、いつも、その真の性質を考えなければならない。それは、きよい接吻である (付録参照)。それは、クリスチャンの友人たちが別れる時や、数週間または数か月後に再会するとき、交わりのしるしであるとみなさるべきである。テサロニケ第一 5:26 において、パウロは、『すべての兄弟たちに、きよい接吻 (せつぶん) をもって、よろしく伝えてほしい』と言っている。パウロは、同じ章のなかで、『あらゆる種類の悪から遠ざかりなさい』と言っている。きよい接吻が適当な時と場所で行われるならば、悪く思われることはないのである。」(初代文集 220)

- a. パウロは、テサロニケにいる信徒たちの第二の手紙を始めるために、どの支えとなる励ましを用いましたか（テサロニケ人への第二の手紙 1:1-5）。

「〔パウロ〕は再び彼らの誠実さに対する確信を表明し、〔テサロニケ人〕の信仰が固く、また、互いに、主のみわぎのために豊かな愛をもっていることに対する感謝をあらわした。パウロは、彼らを迫害や艱難に勇敢に耐える堅忍不拔の模範として他の教会に紹介したことを告げた。」（患難から栄光へ上巻 286）

- b. もしテサロニケの人々のように迫害されるなら、彼らに提示された希望によって、なぜわたしたちがみな励まされることができのでしょうか（テサロニケ人への第二の手紙 1:6, 7）。

「〔テサロニケ第二 1:1-6 引用〕。ここにわたしたちは、これらの諸教会の互いへの関心を見る。彼らが耐えた迫害は、すべての心を共に引き寄せ、互いに結び合わせた。彼らは広く散らされた。誤謬と迷信的な信仰やユダヤ国家の教理が、あまりにも激しく、キリストに反対したため、小さい群れは羊飼いのない羊のようになった。しかし、種はまかれつつあった。キリストは彼らの間で十字架につけられたお方として掲げられ、自分たちの信仰のゆえに生じた兄弟たちの貧困や圧迫を緩和するために絶えず努力が払われた。」（手紙と原稿 12 巻手紙 28, 1897）

- c. なぜキリストの間近に迫った再臨が、みなわたしたちの心に深い印象を与えるべきなのか（テサロニケ人への第二の手紙 1:7, 8; 詩篇 50:3, 4）。

「〔テサロニケ第二 1:8 引用〕。これらの 重大な出来事が目前に迫っているが、なお真理を信じると公言する多くの人々は眠っている。彼らがもし世を友とする現在の立場をそのまま維持するならば、たしかに心のうちに『わたしの主人が帰ってくるのは遅い』と言っている不忠実なしもべと共に数えられるようになる。キリストが罪を負うためではなしに救を与えるために現れるのは、希望と信仰のうちに待っている人々に対してのみである。多くの人々は真理の理論は持っているが、神の力は知らない。もし神のみ言葉が心のうちに宿っているなら、それは生活を支配するはずである。信仰、純潔、神のみ旨への一致が、その聖化する力を証するのである。」（教会への証 5 巻 15）

a. 二種類の人々の運命を説明しなさい（テサロニケ人への第二の手紙 1:8, 9）。

「他の人が悪いからと言って、自分の欠点を言い訳してはならない。神の日には、他の人々が献身と靈性を表さなかったことを、自分が天のために品性を型どることをなおざりにした言い訳として嘆願しようとはしないであろう。あなたが他の人々の内に発見した同じ不足が、あなた自身のうちにある。そして他の人々が罪人であるという事実があっても、あなたの罪は嘆かわしいのである。彼らもあなたも、もしあなたが今のふさわしくない状態を続けるならば、キリストから離れ、サタンやその使と共に、主のみ前からの、またこのお方の御力の栄光から来る永遠の滅びをもって罰せられることになる。

主はあなたのために豊かな備えをしてこられた。もしあなたがご自分を訪ね求め、このお方が与えて下さる光に従うなら、あなたが途中で倒れることがないためである。神のみ言葉があなたの足のともしび、あなたの道の光として与えられた。もしあなたがつまずくなら、それはあなたが神のみ言葉を自分の案内者として相談してこなかったからであり、その尊いみ言葉をあなたの生活の規則として来なかったからである。神はだれか人間を、たとえどれほど善良で背むべきことがないように見える生活であっても、生活の型としてあなたに与えてはこられなかった。もしあなたが他の人がしているようにして、他の人が行動するように行動するなら、あなたは最終的に、ちょうどあなたがしてきたように、主が残しては来られなかった型に従ってきて、またあなたが失われるのとちょうど同じように失われる大群衆と共に、聖都の外に取り残されるであろう。

他の人々がしてきたこと、あるいは将来するであろうことは、あなたの責任や罪を少しも減じることはない。型、すなわち自己否定と無我の慈善によって特徴づけられた傷のない生活はあなたに与えられてきた。もしあなたがこの正しい、この完全な型に背を向けるなら、あなたにたどる一連の行動は、それにふさわしい報いを受けるであろう。あなたの生涯は失敗するであろう。」（教会への証 2 巻 396）

b. どのようなすっきりとした対照が存在していますか。またそれはなぜですか（テサロニケ人への第二の手紙 1:10）。

「わたしたちの主の復活と昇天は、神の聖徒たちが死と墓に対して勝利する確かな証拠であり、また自分の品性の衣を洗い、小羊の血で白くする人々に対して、天が開かれているという誓いである。イエスは人類の代表として御父のもとへ昇天された。そして神はキリストのみかたちを反映している人々をながめ、ご自分の栄光をご自分と分かつために連れて行かれるのである。」（教会への証 9 巻 286）

- a. 神の教会のすばらしい結果を述べなさい（テサロニケ人への第二の手紙 1:11, 12）。
- b. 預言的な光景が成就するとき、わたしたちは何について保証されますか（テサロニケ人への第二の手紙 2:1-7）。

「不法の者として預言中に指し示されている者がいる。彼はサタンの代表者である。神の律法は神のみ座のように不変なものであるが、それに関してサタンのほめかしを受けいれ、この不法の者が入り込み、それを世に彼がその律法を変更し、週の第七日目の代わりに第一の日が今の安息日であると提示する。無謬を公言し、彼は神の律法と自分自身の目的に会うように変更する権利があると主張する。

しかし、キリストは、天地が滅びゆくまで、律法の一点一点も替えることはないと言われた。このお方がなすために来られたまきにその働きは、この律法を高めることであり、創造された諸世界と天に、神は正しく、このお方の律法は変更される必要がないことを示すことであった。しかしここに、サタンの右腕である人がいて、サタンが天で始めた働きを実行する用意ができており、神の律法を変更しようとしている。…

不法の者は神に対して自ら高ぶり、神の宮に座して、自らを神として表わしている。彼は神のみわざを記念するために制定された偉大な創造の記念日を足の下に踏みこみ、世に一般の平日を提示してきた。…

しかし、人類家族が全員この法王権の申し子を受け入れたとしても、これがエホバの聖なる安息日を無効にすることはあり得ないのである。偽りの安息日を受け入れる人々は不法の者を高め、神の統治を攻撃するのである。しかし、不法の者は、神が永遠に続くと言われたものを無効にすることはできない。今わたしたちの世でなされなければならない働きは、主の律法を高めることであり、民の注意をそれに呼び求めることである。真理が偽りと誤謬に対して宣布されなければならない時がきた。」（SDA パイブル・コメント [E・G・ホワイト・コメント] 7 巻 910）

個人的な復習問題

金曜日 12月18日

1. 実際の意味において、どのようにわたしは悪と見えるすべてのことを断つことができますか。
2. ヨハネの第一の手紙 1:7 に従って、本物の交わりの基礎は何ですか。
3. わたしたちの神の力について、どの現実が、わたしたちの心に畏敬を吹き込みますか。
4. なぜわたしは、他の人々の欠点に落胆するのを避けなければなりませんか。
5. どのように人々が神の真の安息日の現実を理解するのを助けることができますか。

自ら戦いのために準備する

暗唱聖句：「その時あなたがたは、再び義人と悪人、神に仕える者と、仕えない者との区別を知るようになる。」(マラキ書 3:18)

推奨文献： 教会への証 5 巻 137-148; 449-467;
各時代の大争闘下巻 304-317

「神の大いなる力を持っていると主張する人々は、偉大な探知機、すなわちエホバの律法によってのみ識別することができる。…羊の覆いがどれほど本当で本物に見えても、おおかみは、神の偉大な道徳的標準の下へ行くときのみ識別することができる。そこで、彼らはエホバの律法の違反者であることを見出すのである。」(信仰と行い 45)

1. 驚いてはならない

日曜日 12 月 20 日

a. 終わりの時代のどの現象が特徴的ですか(テサロニケ人への第二の手紙 2:8, 9)。

「わたしは、サタンが手下たちを使って、いろいろの方法で働くのを見た。彼は真理を拒んで欺瞞に陥り、偽りを信じて滅びに陥った教師たちを用いて働いた。彼らが説教したり祈ったりしているときに、ある人々はうつ伏せに倒れ動かなくなった。これは聖霊の力によるのではなくて、サタンの力がこれらの手先を動かし、その影響を人々に及ぼしたのである。現代の真理を拒んだある自称再臨信徒たちは、説教や祈りや会話において、催眠術を用いて、信者を得ようとした。そして、人々は、それを聖霊であると考えたので、このような感化力を受けることを喜んだ。これを用いた者の中には、悪魔の暗黒と欺瞞に深く陥ってしまって、それは彼らが用いるように与えられた神の力であると考える者もあった。」(初代文集 107, 108)

「サタンは、悪天使たちに囲まれて、神であると主張し、もし可能であれば選民をさえも欺くためにあらゆる種類の奇跡を働く。神の民は自分たちの安全を、奇跡を働くことには見出さない。なぜなら、サタンが、なされることになる奇跡の偽物を働くからである。神の試され、テストされた民は、自分たちの力を出エジプト着 31:12-18 の中で語られたしるしのうちに見出す。彼らは行けるみ言葉の側に自分の立場を取るのである。『こう記されている』。これこそ、彼らが安全に断つことができる唯一の基礎である。」(教会への証 9 巻 16)

- a. まもなく滅びようとしている人たちには何が足りないのですか（テサロニケ人への第二の手紙 2:9, 10）。

「聖書を熱心に研究し、真理の愛を受けたものだけが、世界をとりこにする強力な惑わしから守られる。」（各時代の犬争闘下巻 400）

- b. 彼らの公言に関わらず、真理を愛さない人々に何を送られますか。それはなぜですか（テサロニケ人への第二の手紙 2:11, 12）。

「聖書は、主の再臨の前に、サタンが『あらゆる偽りの力と、しるしと、不思議と、また、あらゆる不義の惑わしとを』もって働き、『自分らの救となるべき真理に対する愛を受けいれ』ない者は、『偽りを信じるように、迷わす力』を受けるに至る、と言っている（テサロニケ第二 2:9－11）。こうした状態になって、教会と世俗との結合がキリスト教国全体において完全に行なわれるときに、初めてバビロンの墮落は完全なものとなる。」（同上 92）

- c. どの目的のために、神はわたしたちやわたしたちの家族を召してこられましたか。またどの義務や課題がこれに含まれていますか（テサロニケ人への第二の手紙 2:13-15; マラキ書 3:17, 18）。

「賢明な指導と信心深い両親からの訓練を受けたわたしたちの青年が、真理によって聖化され続けるかどうかは、彼らが家庭を出た後に、彼らがクリスチャンの教えを求める人々の間で出会う感化力に大いにかかっている。」（教会への証 8 巻 226）

「イエスを信じると公言する人々は、いつも光に向かって前進しているべきである。彼らは日ごとに聖霊の光が神聖な書のページの上を照らすように祈るべきである。それによって彼らが神の御霊の事がらを理解することができるようになるためである。わたしたちは神のみ言葉を信じる絶対的な信頼をもたなければならない。人の言葉は、その人がどんなに立派であろうと、わたしたちを完全にすることはできない、すなわちあらゆる良いわざに対して、完全にととのえられた者にすることはできないのである。…わたしたちが神と共に働く共労者となるのは、御霊の聖化と真理の信仰を通してである。」（クリスチャン教育の基礎 188, 189）

- a. 何が忠実な忍耐を可能にしますか（テサロニケ人への第二の手紙 2:16, 17; 3:1-5）。

「こうしてパウロは、キリストの再臨の前まで幾世紀もの長い暗黒と迫害の期間を通して継続する、あの悪の権力の破壊的な働きについて大要を説明した。テサロニケの信者たちはすぐさま救い出されることを望んでいたが、今は勇敢に、神をおそれながら、彼らの前にある仕事を始めるよう諭された。使徒は彼らに、義務を怠ったり、あきらめて何もしないで待つようなことにならぬようにと命じた。すぐに救い出されるだろうという期待が燃えた後は、日常の仕事や、彼らが会わねばならない反対は、二倍の厳しさがあるようにみえるであろう。それだから、信仰に固く立つようと彼らに熱心に説いた。」（患難から栄光へ上巻 288）

- b. パウロは福音の働き人のために、どのような模範を残しましたか（テサロニケ人への第二の手紙 3:6-9）。

「このみ事業において労するために神に選ばれた人々は、自分たちの高い召しの証拠を示し、彼らが練達した働き人になるまで成長し向上することを自分たちの最高の義務とみなす。それから、彼らが神に委ねられたタラントを活用するために、熱心さを表すとき、彼らは思慮深い助けを受けるべきである。しかし、彼らに与えられる励ましは、へつらいのにおいがすべきではない。なぜなら、サタン自身がこの種の働きを十分にするからである。説教をする義務が自分にあると考える人々が、すぐに自らをまた彼らの家族を援助を求めて兄弟たちに身を任せるときに、支援を受けるべきではない。彼らはその働きに良い実を示すまでは、それを受ける資格がない。今は若い説教者たち、またわずかし経験のない人々を、へつらいによって、また生活上の重荷を解放することによって損なう危険がある。説教していないときには、彼らは自給のために自分のできることをしているべきである。これが彼らの説教する召しの性質をテストする最上の方法である。もし彼らがただ牧師として援助を受けることができるために説教することを望むのであれば、また教会が思慮深い方針を取るならば、彼らは直ちに重荷を解かれて、もっと益となる事業をするために、説教の職は離れるべきである。もっとも雄弁な説教者であり、特別な働きをなすために奇跡的に神へと改心したパウロは、労働を免除されてはいなかった。彼は次のように言っている、『今の今まで、わたしたちは飢え、かわき、裸にされ、打たれ、宿なしであり、苦勞して自分の手で働いている。はずかしめられては祝福し、迫害されては耐え忍び、ののしられては優しい言葉をかけている』（コリント第一 4:11, 12)。」（教会への証 1 巻 446, 447）

- a. 本物のキリスト教の重要不可欠な信条である時間を越えた一つの基本的な原則をあげなさい (箴言 20:4; テサロニケ人への第二の手紙 3:10-12)。

「欺かれた人々は、真の清めに到達すれば、心はこの世の思いをすべて超越し、全く仕事をしなくなると教えた。他の人々は、聖書の言葉を極端に解釈して、働くことは罪であると教えた。すなわち、クリスチャンは、自分のことや家族のことなどの物質的幸福について考えるべきではなく、その全生涯を霊的な事のためにささげるべきであると言った。使徒パウロの教えと模範は、こうした極端な意見に対する譴責であった。

パウロは、テサロニケにいたときに、全く彼の手仕事だけに依存していたのではなかった。彼はあとで、その町における彼の経験に言及して、彼がそこにいた間にピリピの信者たちから受けた贈り物を感謝して、彼らに次のように書いた。『また、テサロニケでも、一再ならず、物を送ってわたしの欠乏を補ってくれた』(ピリピ 4:16)。彼は、この援助を受けたとは言っても、テサロニケの人々の前で勤勉のよい模範を示すことに注意した。それは、彼が貪ったなどといういわれのない非難を、だれからも受けることのないためであり、また、肉体労働について狂信的な意見を持った人々に、実際の譴責を与えるためであった。」(患難から栄光へ下巻 29、30)

「個人的な贈り物や教会の金銭で何もしない男女を援助する習慣は、彼らが罪深い習慣のうちにいることを助長する。であるから、このやり方は良心的に避けるべきである。すべての男女子供は、实际的で有益な仕事をするよう教育されるべきである。…全ての人は自分の体の肢体を目的をもって用いるよう教育されるべきであり、神は自らを勤勉な習慣のために教育するすべての人の適応性を増そうとして待っておられる。」(SDA バイブル・コメント [E・G・ホワイト・コメント] 7 巻 912)

- b. 絶望するように誘惑されるとき、何を思い起こさなければなりませんか (テサロニケ人への第二の手紙 3:13)。

「聖潔は、それを持つ人が実り多く、良いわざに富むように導く。彼は決して良いわざをするのにうむことがなく、この世において昇進を求めることもない。彼は天の大君が聖化された人々をご自分の御座にまで高めて下さるときの昇進を待ち望んでいる。そのとき、このお方は彼らに『わたしの父に祝福された人たちよ、さあ、世の初めからあなたがたのために用意されている御国を受けつぎなさい』と言われる。主はその時、彼らのなしてきた自己否定と憐れみ、同情と義の働きを数え上げる。心の聖潔が正しい行為を生むのである。」(教会への証 2 巻 445)

- a. わたしたちは強情な人々をどのように取り扱うべきですか（テサロニケ人への第二の手紙 3:14, 15）。

「わたしたちは一連の行動によって、他の人々の道につまずきの石を置く人々と交わらないように警告を受けるべきである。〔テサロニケ第二 3:14, 15 引用〕。もし彼が主の僕たちの訓告を拒否し、自分自身の意志と判断に従うなら、彼の指導者サタンの靈感の下、彼は自らを滅ぼすのであり、彼は自分自身の罪を負わなければならない。（SDA バイブル・コメント [E・G・ホワイト・コメント] 7 巻 912）

「〔パウロ〕はまた、神のしもべたちによって与えられた教訓を無視し続けている者と交わらぬよう、教会に申しつけた。『しかし、彼を敵のように思わないで、兄弟として訓戒しなさい』と彼はつけ加えた。」（患難から栄光へ上巻 289）

- b. この手紙における最終的な希望を、わたしたちが反映するべきですか（テサロニケ人への第二の手紙 3:16-18）。

「わたしたちは人が持っているものよりも良いものを提供しなければならない。それはすべての思いにまさるキリストの平安である。また神の品性の写し、神が人間に望んでおられる状態の表現である神のきよい律法を知らさなければならない。天の不滅の栄光は一時的な世の喜び、快樂よりもどれほどすぐれているかを教えなさい。救い主の中に見いだされる自由と休息を人々に告げなさい。…。キリストだけが心の渴望を満たし、魂に平安をお与えになることができる。

改革者は世界の人々の間で最も無我で親切で礼儀正しくなければならない。…

わたしたちは、〔神〕が生活を変化させる力をお与えになるのであると信じながら、愛をもって真理を語るべきである。愛より語られた言葉を聖霊が心にお働きになるのである。」（ミニストリー・オブ・ヒーリング 129）

個人的な復習問題

金曜日 12月25日

1. 終わりの時代における魂の敵の活動をいくつかあげなさい。
2. 真理を知っていながら、必ずしも愛してはいない人々に、何が起きますか。
3. クリスチャンの忍耐の秘訣を説明しなさい。
4. 真の改革者の生活をいつも特徴づけているものは何ですか。
5. 誤っている人々を取り扱う聖書的な方法を、わたしはどのように適用するべきですか。

第一安息日 献金



安息日 2026 年 10 月 3 日

タンザニアミッション

ドドマに本部と学校を立ち上げ、建設する
時です (4 ページ)。



安息日 2026 年 11 月 7 日

困窮している各国のための書物

印刷された者が唯一の方法であるところ
へ、真理の光をひろめましょう！ (30
ページ)



安息日 2026 年 12 月 5 日

コンゴ共和国ブラザビルにある教
会

コンゴでの働きは急速に成長しており、緊
急にわたしたちの支援が必要です。(51 ペ
ージ)